

貝塚市立
山手地区公民館

目 次

■年間総括	山 1
■講座・事業	
◇ 青少年対象事業	山 7
子ども将棋クラブ	
百人一首	
フアフアクラブ	
夏の子ども講座	
ヤマチクキッチン	
レッツTRY	
ゲーム de 防災	
◇ 子育て支援事業	山 14
子育て講座（保育つき）	
親子で料理	
ヤマチクオープンサロン	
◇ 成人対象事業	山 17
ことぶきクラブ	
はじめてのフラダンス	
ボクティス	
うたごえサロン（高齢介護課共催）	
笑いヨガ（高齢介護課共催）	
ノルディックウォーキング（高齢介護課共催）	
書道～筆墨に親しむ～	
はじめようインスタグラム	
スマホ・タブレット・インターネット（基本のキ）なんでも相談会	
◇ 共生社会づくり事業	山 27
ふれあい料理	
ふらっとサークル	
学習の集いの場	
◇ 文化振興事業	山 30
ロビーコンサート	
たまねぎ劇場	
気軽にコンサートピアノを弾こう	
ピアノコンサート「ピアノノトナリ」	
ALOHA IN ヤマチク	
山手寄席	
はじめての人形劇	
◇ 人材養成事業	山 36
ふれあい料理ボランティア	
保育ボランティア	
◇ 地域連携事業	山 38
ピアノカの魔術師コンサート	
山手地区公民館まつり	
移動公民館	
ロビー活用	
【参考】ほかでもがんばっているよ	
◇ 団体支援事業	山 43
山手地区公民館活動協議会	

令和6年度 山手地区公民館 事業総括

はじめに

講座・事業・運営を進めるにあたり、「誰もが気軽に立ち寄り、出会い、集える場、自由に学び合える公民館であり続ける」ことを目標とした。

開館34年目、経年劣化のため館内設備の不具合がたびたび発生したが、概ね当初の計画通り講座・事業は実施することができた。

このような状況を踏まえ、本年度の取り組みについて事業別に状況・成果・課題をまとめた。

1. 公民館主催事業

- ・公民館が実施する講座・事業を通じてSDGs（持続可能な開発目標）の実現、及び、人権意識の醸成に努める。
- ・利用者自身が主体的に学び、団体運営に関わることを大切にし、公民館での学習や活動を通じて交流を深め、また公民館での学びの成果を地域に還元できるよう支援する。
- ・「学習」「交流」を通して地域が活性化するよう、地域と公民館の繋がり・地域住民同士の繋がりを意識した事業展開を図る。
- ・クラブ活動・講座報告も含め、公民館活動を広く知ってもらうよう、壁新聞・広報・ホームページ・フェイスブック・パネル展示等を通じ広報に努め、新規利用者の開拓を図る。
- ・青年層及び現役世代の利用者増加に繋がる事業を進める。

<状況・成果>

- ・「ピアノカの魔術師コンサート」「ことぶきクラブ」「夏の子ども講座」等では、SDGsの実現、人権意識の醸成に努め、引き続き学びや交流の場を提供した。
- ・「ヤマチクキッチン」「ヤマチクオープンサロン」「はじめてのフラダンス」「はじめてのインスタグラム」等、異なる立場の人が参加できる新規事業を開催した。
- ・「公民館公式インスタグラム」等のSNSを活用し公民館事業の告知だけに限らず、「一年の取り組み」や「壁新聞」などで公民館事業を報告した。
- ・「学習の集いの場」「レッツ TRY」などでは、継続利用も含め利用は増加した。また、「ボクティス」「はじめてのフラダンス」などの夜の講座では働く世代も多く参加した。

<課題>

- ・引き続き、現代的課題の学習機会の提供と幅広い年齢層のニーズの把握に努めていく。
- ・さらに身近な公民館を目指し、気軽に利用しやすい、誰にとっても居場所となれるような環境の整備。
- ・働く世代の利用に繋がる事業の企画。

① 青少年対象事業

- ・大人との異世代交流を通じて、受講者自身が主体的に興味をもつような魅力ある講座を設定し、子ども達の主体的な参加を高める。
- ・青少年(主に)中高生の活動を行う上で利用できる場があることを知らせ、必要な場を提供し活動を支援していく。
- ・子どもにとっても身近な公民館としての認知度を上げることで、子どもの居場所づくりに努める。
- ・子どもたちが生きる力をつけるための食育・料理講座の実施。
- ・公民館利用者が公民館で自習する子どもの勉強（自由研究などの学校課題の取り組み）を支援する環境づくりに努める。

<状況・成果>

- ・「子ども将棋クラブ」では初心者から経験者、学年、性別、学校など様々であるが、将棋をきっかけに友達づくりに繋がっている。
- ・「夏の子ども講座」は17講座を開催。子ども達にとって公民館での学習を通して、学校、学年そして世代を超えた交流の場となった。
- ・「百人一首」では大人も子どもも対等に戦っている。講座が終了しても受講者同士で話が盛り上がっていることが多く、多世代交流の場となっている。
- ・「レッツ TRY」では音楽室の利用が多く、中学生の時に登録していた団体が、高校にあがっても継続して登録・利用している。
- ・「ヤマチクキッチン」では、買い物から片付けまで子どもたちの主体性を尊重した。
- ・学校生活が難しい子どもでも「ファファクラブ」に来るとのびのびと工作や料理などを行い、成功体験に結び付けている。

<課題>

- ・青少年が参加したくなるような魅力ある内容、また、生きる力につながる講座や事業の企画。
- ・公共施設での利用マナーの伝え方。

- ・各講座に必要なボランティアの確保。

② 子育て支援事業

- ・孤立しがちな子育てについて、親子同士のつながりの場をもち、悩みや疑問などの情報が共有され、解決できる場をつくる。
- ・親子の絆を深める取り組みを促しながら、家族のつながり・地域力の向上を目指す。
- ・子どもを持つ親が気楽に来館でき、学びや交流、さらに親同士のつながりづくりを促す場を提供。

<状況・成果>

- ・孤立しがちな子育てにおいて、「子育て講座（保育付き）」は子育てに必要な学び、そして受講者同士の悩みや情報を共有した。
- ・「親子で料理」は食への関心「食育」へもつながる学びとなり、料理を通じて我が子の知らない一面を発見できた。
- ・乳幼児親子の居場所づくりとして「ヤマチクオープンサロン」を開催し、保育室を気軽に利用できるようにした。

<課題>

- ・子育て中の親が興味をもち、学びを深めるための講座内容と保育体制の強化。
- ・保育室の活用また内装のリノベーションの進め方。

③ 成人対象事業

- ・若者・働く世代を含む新規利用者を増やすため、関心、興味がある講座を企画し、講座終了後も継続して自主活動につながるよう働きかけを行う。
- ・公民館のWi-Fi環境を活用し高齢者のデジタル格差を解消する。
- ・誰もが生涯にわたり心豊かで生きがいのある人生となるよう、興味・関心を持てる多様な学びと交流の機会を提供していく。
- ・実生活の中で生起する様々な課題を発掘し、主体的に取り組む市民と連携して地域課題の解決につながる講座・事業を実施する。

<状況・成果>

- ・夜間開催の「ボクティス」「はじめてのフラダンス」では、働く世代の公民館利用に繋がった。
- ・「スマホなんでも相談会」は随時受付相談を可能とし好評を得たが、公民館職員が対応することの難しさを再認識することになった。
- ・「はじめようインスタグラム」では、7月に新規開設した貝塚市立公民館【公式】インスタグラムフォロワー数増加の一助となった。
- ・書道に親しむ機会をテーマに開催した「書道～筆墨に親しむ～」ではじっくりと筆、墨の感触を味わいながら、日常にない集中した時間を過ごした。
- ・「ことぶきクラブ」では受講者が主体的に学習に取り組むようになった。自らが考え学び合うこと、また他の受講者と学びを共有することで達成感を感じ、受講者同士の関係は深まった。また、公民館まつりの舞台に出演し日頃の活動を発表した。
- ・高齢介護課との共催講座では「うたごえサロン」「ノルディックウォーキング」「笑いヨガ」と多様な取り組みを実施し高齢者の日常的な健康意識を高めた。

<課題>

- ・講座終了後のアンケート等から地域の課題や要望を把握し、新しい講座に結び付ける。
- ・働く世代が関心のある講座づくりで新規利用者の拡大を図る。
- ・公民館主催講座からいかにして自主グループ化を促していくか。
- ・高齢者層のスマートフォンの基礎的な操作の学びをいかに深めるか。
- ・高齢者の日常的な健康意識をさらに高める活動。

④ 共生社会づくり事業

- ・あらゆる立場の人々が共生できる地域社会の実現に向けて学びと市民理解を深める。
- ・多様性社会への理解を深め広めるとともに、講座・事業の展開を図り、共生社会の課題を考える機会を設ける。
- ・障がいのある方、在日外国人などがボランティアとの交流や活動を通して、自立した生活に役立てると共に受講者同士の仲間づくりを図る。
- ・誰にとっても身近な公民館としての認知度を上げることで、あらゆる立場の人々の居場所づくりに努め、学びの場とする。

<状況・成果>

- ・障がいのある人が集う「ふれあい料理」では、ボランティアの声かけなどで受講者全員が料理に関わっていて、挑戦、成功体験の場となった。
- ・2年目となる「学習の集いの場」では、木曜日の開放だけでなく、空き室があれば随時利用を可能とした。

<課題>

- ・気軽に参加することができ、人権を身近なこととして捉えることができる事業を企画継続していく。
- ・安全・安心な居場所づくりのための環境整備。

⑤ 文化振興事業

- ・市民の文化活動の場や文化芸術にふれる機会を増やし、公民館にくることで誰にとっても文化が身近にあることを伝える。
- ・音楽室・ホールピアノなどの認知を上げ、またクラブやグループの発信の場を積極的に提供して、幅広い市民層からの参加と自主活動の推進を促す。

<状況・成果>

- ・「ロビーコンサート」でのオンライン配信は中止したが、2団体の演者が季節をテーマにした内容を企画して身近で気軽に生の演奏を楽しむ機会となった。
- ・「気軽にコンサートピアノを弾こう」では、幅広い世代がコンサートピアノに触れ、舞台上に立つきっかけとなった。
- ・「たまねぎ劇場」は市民グループの発表の場として開催してきたが、話し合いの結果、来年度は休止となった。
- ・乳幼児から参加できる「はじめての人形劇」では、生の人形劇を鑑賞する機会となり好評を得た。
- ・「水間末廣座」をリニューアルした「山手寄席」は、アマチュアの出演であったが好評を得た。

<課題>

- ・「ロビーコンサート」における駐車場問題など開催日時の見直し。
- ・地域で活動している文化団体・グループの支援方法。

2. 人材養成事業

- ・利用者や地域に埋もれている人材を発掘するため、まちのすぐれもの登録制度の認知を高める。
- ・公民館利用者が公民館で学んだ成果を地域で生かし、地域交流貢献活動に積極的に関わることができるよう働きかけを行う。
- ・ボランティア間の意思疎通を図るため情報交換を行い、ボランティアが自主的に活動に関わることができるような環境作りに努める。

<状況・成果>

- ・まちのすぐれもの登録制度の更新を行ない、講座事業では延べ23回の活用を行ったが、市民からの利用はなかった。
- ・「ふれあい料理ボランティア」研修会では、三館のボランティアが交流を深め、有意義な情報交換が出来た。
- ・保育ボランティアの定期登録者が昨年より2人減少したため、不定期登録者に協力を求めた。

<課題>

- ・まちのすぐれもの登録制度の認知と登録者の活用・宣伝。
- ・今後も必要なボランティア登録者数を確保すると共に、定期的な情報交換を行い、活動しやすい環境作りに努める。
- ・ボランティア活動のスキルアップを目指した機会づくり。

3. 地域連携事業

- ・「山手地区公民館まつり」を通して広く地域の人々に公民館活動を知ってもらうとともに、公民館活動の意義を発信する。
- ・町会や三中校区、四中校区地域教育協議会等と連携しながら、地域への関わりを強め、地域コミュニティの活性化を促していく。
- ・地域理解、地域問題、地域の魅力を深めるため、「移動公民館」など地域へ出かける事業の告知と地域が求める学びの内容を探る。

<状況・成果>

- ・「山手地区公民館まつり」ではオープニングに地元保育園が出演した。また、地域団体の参加もあり地域住民の交流の場となった。
- ・「第三中学校区地域教育協議会」による5年ぶりの「ふれあいフェスティバル」開催に向け、実行委員会に参加した。また、開催当日には機材提供、準備片付けなどの協力も行った。
- ・「ロビー活用」では個人、団体の展示交流だけでなく、ロビーが子どもたちの居場所になり、利用することで職員と交流したが、利用マナーの徹底に課題を残した。
- ・「移動公民館」では山手地域において6回の依頼があった。また、ふれあい喫茶も含め公民館事業の宣伝も強化した。
- ・「ほかでもがんばっているよ」では、ふれあい喫茶や福祉施設等からの依頼が増加傾向であった。

<課題>

- ・第三中学校区地域教育協議会等、地域の各種団体と連携し情報交換を行い、各事業を展開していく。
- ・「移動公民館」の更なる周知拡大。
- ・子ども達への公民館利用マナーの徹底。

4. 団体支援事業

- ・クラブやグループの状況把握に努め、会員拡大・活性化や新規クラブ化のために適切な支援を行う。
- ・各クラブの体験講座や地域活動等の取り組みを奨励し、活発に行えるよう支援するとともに、その活動状況・成果をパネル展示等で広く利用者・市民に紹介する。
- ・公民館活動の意義や重要性について啓発し、主体的な活動となるよう繰り返し働きかける。

<状況・成果>

- ・「山手地区公民館活動協議会」においては、留任・新任役員が力を合わせて協議会を運営し、活発な意見交換があった。また、4年ぶりに開催した「さよならパーティー」は大いに盛り上がった。
- ・ロビー展示では、各クラブの活動成果発表をホームページに掲載するなどの宣伝をおこなった。
- ・各クラブの館外活動などの告知協力をおこなった。

<課題>

- ・協議会運営での役員及び委員の負担を軽減するなど、新しい運営スタイル構築へのサポート。

【主催講座・事業・共催事業】

事業区分	講座・事業名	受講者数	期間	回数	延べ参加者数	
青少年対象事業	子ども将棋クラブ	10人	4/20～3/15	12回	79人	
	百人一首	7人	4/6～3/1	12回	60人	
	フアファクラブ (前期)	10組	4/21～7/21	4回	72人	
	(後期)	10組	10/27～1/19	4回	58人	
	夏の子どもの講座	和太鼓教室		7/20	1回	中止
		多国籍料理をつくってみよう		7/22	1回	12人
		たのしく歌おう		7/22	1回	12人
		ウクレレをさわってみませんか		7/23	1回	7人
		モデルウォーキングしてみよう		7/26	1回	12人
		ミツロウラップとクリームソーダ		7/26	1回	12人
		木製携帯スピーカーを作りませんか		7/27	1回	9人
		夏休みの宿題にもなる絵画を描こう		7/29	1回	8人
		市民のスポーツ、卓球をはじめよう		7/29	1回	13人
		アイシングクッキー		7/30	1回	10人
		みんなで楽しく卓球をしよう		7/30	1回	10人
		親子で学ぶ性教育☆同意と境界線		8/1	1回	7人
楽しい卓球			8/2	1回	11人	
シュワシュワのふしぎなこなは何？			8/5	1回	16人	
伝統文化のお茶とお花を楽しむ			8/5	1回	19人	
キラキラ♡レジン小物をつくらう		8/8	1回	12人		
水の実験と噴水フルーツポンチ		8/9	1回	15人		
ヤマチクキッチン		9/14	1回	11人		
レッツTRY	13組	通年	66回	263人		
ゲーム de 防災		8/8	1回	9人		
子育て支援事業	子育て講座 (保育つき)	9人	9/5～10/24	8回	56人	
	親子で料理		5/12～2/1	4回	106人	
	ヤマチクオープンサロン		9/1～3/31	21回	48人	
成人対象事業	ことぶきクラブ	27人	4/2～12/10	30回	630人	
	はじめてのフラダンス	16人	6/24～10/7	8回	91人	
	ボクティス	30人	5/17～7/5	5回	107人	
	うたごえサロン (高齢介護課共催)		6/15	1回	25人	
	笑いヨガ (高齢介護課共催)	22人	6/27、7/11	2回	33人	
	ノルディックウォーキング (高齢介護課共催)	15人	9/27～11/22	5回	58人	
	書道～筆墨に親しむ～ 第1期	9人	9/6～10/18	4回	23人	
書道～筆墨に親しむ～ 第2期	11人	11/1～12/13	4回	34人		

象成人業対	はじめようインスタグラム	10人	12/2・12/9	2回	16人
	スマホなんでも相談会		通年	49回	49人
づくり共生社会事業	ふれあい料理		5/17~3/21	9回	51人
	ふらっとサークル	9人	4/7~6/2	3回	18人
	学習の集いの場		通年		386人
文化振興事業	ロビーコンサート		5/21~3/18	6回	340人
	たまねぎ劇場		4/21	1回	60人
	気軽にコンサートピアノを弾こう		4/28~10/18	3回	124人
	ピアノコンサート「ピアノトナリ」		6/9	1回	105人
	ALOHA IN ヤマチク		5/19	1回	180人
	山手寄席		2/9	1回	148人
	はじめての人形劇		9/29	1回	67人
成人事業養	ふれあい料理ボランティア	5人		11回	55人
	保育ボランティア	18人		8回	50人
地域連携事業	ピアニカの魔術師コンサート		11/24	1回	210人
	山手地区公民館まつり		10/19・10/20	1回	1395人
	移動公民館		5/24~1/25	6回	110人
	ロビー活用		通年		
援団事業支	山手地区公民館活動協議会 33 クラブ	404人			

【表の見方】

- ・「受講者数」は、申込を受理した人数。記載のないものは当日参加又は1回限りの事業
- ・「参加者数」は延べ参加人数欄に記載、ボランティアにおいては「登録人数」

子ども将棋クラブ

<ねらい>

将棋を親しみ、将棋を通じた仲間づくりをすすめる。

地域の大人との異世代間交流の場とする。

<状況・成果>

4/20～3/15 第3土曜日 13時半～15時（全12回） ボランティア指導者3人

受講者10人（未就学1人、1年生2人、3年生2人、4年生2人、5年生1人、6年生2人）

4月は、例年どおり受講申込みは不要で誰でも気軽に参加ができる。当日は、昨年度の受講者4人と講座初体験者1人の計5人で、男同士の会話が弾み和やかな回だった。

5月から正式に受講申込みのあった子どもたちが揃い、新年度の講座がスタートした。受講者の内訳は、昨年度から継続して申込みのあった5人と新規5人の計10人である。活動は、主に受講者同士又はボランティア指導者との対局であるが、初心者へはボランティア指導者が個別でルールの説明や攻め方・守り方の戦術を解説した。

初心者～経験者、年齢・性別・学校など様々であるが、回を重ねるごとに段々と緊張感もほぐれ、子ども同士が自然と仲良くなっていく姿が見られた。

また、講座運営について、職員が最小限の関わりしかできないときでも、ボランティア指導者の熱心なサポートのおかげで円滑に進められた。だが、対局を繰り返すことにより、集中力も欠け、将棋に飽きて時間を持て余す子どももいるため、飽きさせない工夫が必要になる。たまに、職員によるクイズ（将棋の歴史や豆知識）の出題や、変則将棋を取り入れることで、子どもたちが新鮮な気持ちで向かえるようにした。

＝新春将棋大会＝

1/18 土曜日 13時半～15時 参加者7人

日頃の活動の成果を発表する場として「年に1度は大会をしよう」ということで、毎年開催している。ルール説明の際、「対戦相手には、（たとえ友だちであったとしても）きちんと対応してください。負けたときは、はっきり負けましたといひましょう。始まりと終わりの挨拶も、きちんとしましょう」と伝えた。

表彰式では1～3位には賞状や盾を、参加者全員にボランティア指導者手作りの賞品を手渡した。

表彰式終了後、「来年は新しい仲間を迎えてまた活動に励み、さらに強くなってたくさんの参加者にお会いしたい」と司会があいさつをして閉会した。

<課題>

講座時間を飽きさせない工夫。



初心者とボランティア



新春将棋大会

百人一首

<ねらい>

日本の伝統文化である和歌に親しみ、記憶力や集中力を養う。

多世代交流の場とする。

<状況・成果>

4/6～3/1 土曜日 14時～15時半（全12回）受講者7人（小学生3人、大人4人）

毎回、競技かるたを個人戦、グループ戦などで戦う。上の句をあまり覚えていない子には、周りの大人が1枚でも取れるようにサポートし、よく覚えている子は、大人と対等に真剣勝負を楽しんでいる。また、受講者の気分に合わせて、坊主めくりや小学生の受講者が持参した都道府県カルタ、ことわざカルタなど違うカードゲームも取り入れながら活動している。

1年で受講者同士の交流も深まり、受講者のなかで、百人一首をよく覚えている人が、和歌についての豆知識を教えてくれたり、受講者それぞれが好きな和歌について全員で話したりすることがある。講座終了後も、ロビーのピアノを一緒に弾いていたこともあり、自然に多世代が交流できる場となった。

しかし、今年度は、大会以外で講師を派遣しなかったため、上達の秘訣や和歌の内容などについて詳しく学ぶ機会はなかった。今後は、競技カルタだけでなく、百人一首の内容を学べる機会を作れるよう、講師の派遣や相互学習の時間を検討したい。

毎年恒例、1月の百人一首大会は、以下のとおり開催した。

百人一首大会

1/11 土曜日 14時～16時 参加者11人 講師：野路 義之

定期受講者が毎月の活動の成果を発表できるように企画している。また、百人一首講座を知ってもらうため、講座の受講者増加を図るためにも一般募集を行い、定期受講者以外の人も参加可とした。結果、定期受講者4人、一般参加者7人の計11人で対戦した。

対戦1回目は受講者全員を2グループに分けた。2回目は、1回目の勝った順に2人組を作り対戦した。優勝は、一般参加者の高校生となり、定期受講者の小学生達は悔しそうにしていたが、今後の活動の原動力になったようだ。最後に、定期活動の案内をして終了した。

<課題>

講師派遣の回数増加を検討する。



フアフアクラブ

<ねらい>

親も子も小集団の中で自分の居場所を見つける。
 学校生活が難しい子どもに成功体験ができる場とする。
 親が子どもの心と体の成長を感じられる場とする



<状況・成果>

前期 4/21～7/21 後期 10/27～1/19 第3日曜日 10時15分～12時 (全8回)

受講者延べ60組 (親の会 8/18、9/8、2/16 日曜日 10時～12時)

講師：松本 啓子 (学校心理士) ボランティア6人

小学生親子対象で、毎回市広報で募集しているが、新規の申込みは少ない。材料費も当日徴収している。ほとんどの受講者は講師の紹介で、4月から毎回参加しており、8組は固定となっている。

プログラムは主に講師がアイデアを出し、事前に試作してボランティアの打ち合わせ時に持参してくれている。打ち合わせでは、時間配分も考慮し、正午には終わるように段取りしているが、5月「スペシャルおにぎりランチ」の時は、おにぎりに入れる具材作りの種類も多くて手間取った。6月の「夜店ごっこ」は、工作・わなげ・ベビーカステラ・たませんなど6コーナーを用意し、工作以外は、ボランティアが準備した。スタンプラリーのカードも作って各自自由に遊べるようにした。カレンダーや貯金箱の製作時には、終了時間になっても完成することができず、持ち帰る受講者もあり、後日完成した写真を見せてくれた。

創作では、子どもと親がそれぞれ作っている。子どもの発想は、ボランティアの想像を超えるほど豊かで、作品をほめるととてもうれしそうな表情だった。学校では、集団生活についていけない子もいるが、この講座では誰も頭ごなしに怒らず、のびのびと過ごすことができる居場所となっている。しかし、親が作った作品を見て、子どもは親のように完成度の高い作品ができないことにやきもちをやいたり、途中で飽きてしまって廊下に出たり、部屋を走り回ったり、また、なかなか部屋に入ってこなかったり、パニックになる子もいる。その時は講師が対応し、講座に参加するよう促すと落ち着いて過ごせるようになってきた。

様々な症状の子に対応しないといけないので、兄弟の人数が多いと講師の目が行き届かない時もあった。

フアフアクラブを卒業して、ボランティアとしてかかわっている若者には、できることとできないことがあるので、講師と相談しながら役割分担を調整している。

講座期間の合間に、親だけで集まる「親のほっこりする会」を開催。日頃の悩みを出し合い、共感したり、講師のアドバイスに涙ぐむ人もいた。

<課題>

時間に余裕をもてるようなプログラム作り。

定員や材料費の徴収方法、申込期間など募集方法の見直し。

月日	内 容	受講者	月日	内 容	受講者
4/21	カレンダー作り	5組	10/27	フルーツサンドを作ろう	8組
5/19	スペシャルおにぎりランチ	10組	11/17	昔あそび&できたておもちを作ろう	5組
6/16	夜店ごっこ	6組	12/22	クリスマスカード・お正月カードを作ろう	9組
7/21	しかけ貯金箱を作ろう	10組	1/19	感謝のお弁当づくり	7組

夏の子ども講座

<ねらい>

夏休みを利用して子どもの様々な体験や学習の機会。
地域の大人と子どもの交流、異なる学年・学校の交流の場。
協力クラブや地域団体の活性化。

<状況・成果>

7/22～8/9 受講者 延べ 185 人 17 講座（申込み総数 559 人）【協力団体 17】

夏の子ども講座は、企画の募集案内を出してから提出までの期間が短いことやクラブの企画参加が少ないこともあり、直接クラブや地域団体へ声をかけ協力を依頼した結果、17 講座の申込みがあった。企画の募集は 13 講座に設定していたが、各講座の定員が少ないことなどを考慮し、抽選を行わず 17 講座全て開催することとした。昨年掲載した広報かいつかに加え、今年は 7 月に新規開設した貝塚市立公民館のインスタグラムに夏講座の申込み案内を行い広く周知した。17 講座のうち 1 講座は企画者の都合により中止、10 講座が抽選、お茶とお花の講座は全員受け入れて開催した。

講座の内容は豊富で、料理やスポーツ、SDGs や実験などがあり、一人で様々な講座に申し込んでいた。お茶やお花、ウォーキングなどは指導してくれる大人の真似を、実験や SDGs の学習では子どもが活発に発言できる工夫があり、講座の特徴に応じてそれぞれの楽しさを味わっていた。

目新しい企画のモデルウォーキングやアイシングクッキー、ここ数年開催しているキラキラレジンを水の実験などは人気があった。

各講座では、企画運営側の大人や子ども同士の交流が活発に行われていた。他の学校の子と仲良くなれてよかったと感想を書いている子もいて、公民館での学習を通して、学校や学年を超えた交流の場となった。また企画運営側の団体は、子どもの反響があるとやりがいや目標にもなると語ってくれた。

終了後に順次ロビーに掲示した壁新聞（講座報告）は、子どもや大人が立ち止まって夏講座を振り返っていた。報告や SNS 等の写真撮影には親の了解や子どもが特定されないように注意が必要であり、親と来館した受講者には講座の受付時に了解を取って対応したが、子どものみで来館する場合は聞き取りができないので、今後は申込み時に了解が取れるような工夫も考えていく。

<課題>

企画団体への協力呼びかけの工夫と、企画受入れ講座数の調整。
申込みや受講の可否の連絡、報告写真撮影許可等の手続きの工夫。



ヤマチクキッチン

<ねらい>

子どもたちの生きる力を身につける。
食育の推進と調理スキルの向上を図る。

<状況・成果>

9/14 土曜日 10時～13時半 受講者 11人 講師：山中 弓子(全国学校調理師連合会)

メニュー：おにぎり、から揚げ、みそ汁、米粉カップケーキ

子どもたちが買い物から片付けまで全て自分たちで1回分の食事を作れるように企画した。そのため、大人はほとんど安全確保のみで、必要以上に手を出さないことを徹底し、メニューは、油で揚げないから揚げ、包丁を使わないおみそ汁など、小学1年生からでも簡単に取り組むことができるレシピとした。受講者は、家で料理を作っている子から、全くしていない子、小学1年生から6年生まで様々だった。

初めに、班ごとに分かれて買い出しに行った。子どもだけで買い物に行くのは初めての子が多く、ねぎを選ぶのに5分かかったり、肉の種類で迷ったりしていたが、何を作るのに使うか、何円持っているか、何人分必要かなどレシピを見ながら自分たちでよく考えて決めていた。



調理は、班で役割分担をしながら積極的に取り組んでいた。講座が始まる時は、初対面で緊張していた子どもたちも、買い物ですぐに仲良くなり、調理の時は班の中でよく話しながら作っていた。また、米粉カップケーキの飾りつけは子どもたちに全て委ねたところ、とても楽しかったようで、一人ひとり違う個性豊かなカップケーキが出来上がった。

講座全体を通して、事故や怪我なく順調に終わることができたが、館外に出る買い物、火や包丁を使う場面での見守りが十分にできなかったのは反省点である。今後は、受講者に応じて大人の配置を増やすことを検討したい。

《受講者の感想》

- ・買い物へ行って楽しかった。りょうりおいしかった。
- ・みんなとのしくかいものにいたり、みんなといっしょにつくってたのしかったです。またやりたいです。
- ・スーパーにいたりごはんづくりのときにバナナをきるのが楽しかった。おいしかった！
- ・買い物を何をかうか考えて買えたのがよかった。
- ・家でもつくろっかな～と思いました。らいねんもやってほしいです！
- ・米粉カップケーキのトッピングをしておいしかった。
- ・ごはんをつくる時、さらあらいもみんなで分担してはやくおわた。
- ・レシピもあるので家でつくろうと思いました。

<課題>

ボランティアの確保。



レッツTRY

<ねらい>

中高生のグループ活動（音楽やダンス、創作活動など）を支援する。

若者が公民館を利用する機会とする。

<状況・成果>

グループ登録は13組、延べ66回の利用があった。

登録者は、高校1年生が多い。前年度は、中学3年生の登録が多く、同じ人が高校にあがってもグループ名やメンバーを変えつつ利用を続けている。団体の種別についてはバンドが多く、バンドは音楽室、ダンスは視聴覚室を使用した。

活動時間について、チラシには午後8時までと記載しているが、一部午後8時以降の利用があった。楽しくかつ安全に当事業を活用してもらえるよう、再度職員間で利用時間の確認、利用者への説明が必要である。

今年度、本事業を活用している高校生バンドから、「自分たちの発表の場をつくりたい」と相談があった。ホールの音響や照明などについて事前に職員が相談に応じ、実現可能な舞台を自分たちで考えた。当日は、自主グループとして定期的に音楽室を利用している20代バンドも音響などの技術的な場面で手助けするなど、周りを巻き込みながら、全員で初めての舞台を成功させた。

今後も地域の学生たちが自主的に活動できるよう支援していく。

団体名	学年	種別	メンバー数(人)	使用回数
元三中軽音部	高1	音楽	10	30
令和のヴィーナス	高1	音楽	3	5
こうたいれん	高1	音楽	4	1
えんそ ENSO	中2	音楽	5	1
サカバンクレイジー	高1	音楽	5	4
エンヤ	中2	音楽	5	1
English Stage Presentation	中1	ダンス	4	3
積乱雲	高1	音楽	4	9
9CaCes	高1	音楽	4	1
満身創痍	高2	音楽	3	2
VANTAGE	中2	ダンス	5	5
PasCal	高1	音楽	5	2
ファーストダイバー	高2	音楽	4	2

<課題>

夜間利用時間の確認と周知。

ゲーム de 防災

<ねらい>

防災に対する関心を高め、実践的な防災スキルを身に付ける。

地域の防災意識を向上させる。

<状況・成果>

8/8 木曜日 13時半～15時 受講者8人 講師：貝塚市危機管理課

夏の子ども講座の一環として開催。ゲームの対象年齢を考慮し、小学3年生以上の募集とした。はじめに、能登災害派遣に参加した館長から現地の状況報告をし、続いて危機管理課から「南海トラフにそなえて」の説明を行った。実際の写真や動画を見てその怖さを知り、簡単なクイズで地震が起こる仕組みを学んだ。



防災カードゲーム「なまずのがっこう」は、1人1人が異なるアイテムカードを持ち、災害時に起こりうる様々な例に対して役に立ちそうなカードを自分で考えて出す。答えは、「手に入りやすいもの」「使いやすいもの」であるほど高得点を獲得でき、子どもたちはポイント獲得に向けて真剣に取り組んでいた。また、「防災に正解はない」という観点から、用意された解答にないアイテムカードを出した子には、そのアイテムをどのように使うか説得できたら特別ポイントがもらえるとし、子どもたちのプレゼン力も光った。講師は、「災害時には、みんな同じものを持っているとは限らない。自分の周りにあるものでいかに状況を良くするか考えることが大事」と話し、緊急時は臨機応変な対応が大切であることを学んだ。



次に、災害時のテントとトイレを見学。順番にベッドに座ったり寝たりした。「案外寝れる!」「思ったより広い」など楽しそうに体験していた。トイレでは、断水になったときにどのように処理するか、水と凝固剤を使って実験した。初めて見るものばかりで、子どもたちは前のめりになり興味津々だった。

災害食の試食では、5種類のアルファ化米を食べ比べ、どれが一番美味しいか投票した（一番人気はドライカレー味）。講座の始まりに緊張していた子どもたちも、楽しく話しながら食べていたのが印象的だった。



最後に、危機管理課から修了証が授与された。子どもたちの防災意識が楽しく高まった講座となった。

《受講者の感想》

- ・ぼうさいについて改めて知ることができた。
- ・防災でだいたいのひつような物がわかりどのようなごはんかわかりました。
- ・じしんのこわさしっていたけどこんなにたいへんとはしなかった。
- ・ドライカレーおいしかった!
- ・防災の時どんななのかとてもよく分かった。防災について考えることができた。

<課題>

低学年も参加できる防災講座の検討。

子育て講座(保育つき)

<ねらい>

親が子育てに関する知識を学ぶ機会を提供する。
地域の親子が交流し、悩みや情報を共有できる場とする。



<状況・成果>

9/5～10/24 木曜日 10時～11時半 (全8回) 受講者9人 保育10人

子育てについて、性教育、応急処置、歯と健康の関わりなどの知識を学ぶ一方で、日頃の疲れを癒したり、大人同士で話したりできる講座となった。回を重ねるごとに、親同士の会話が増え、出席率も高かった。また、「もっと回数を増やしてほしい／(最終回に)また来週も来たいと思う」という意見が多く、親同士のコミュニティの場は、当事者にとってとても需要があると分かった。

講師がいる回では、講座終了後に必ず講師への質問があり、親同士でも講座の内容について話していた。質問が止まらず、保育のお迎え時間を大幅に超えてしまうことも多々あったため、時間内に質疑応答の時間を長く取るなど改善が必要である。

最終回は、保育中の様子を撮ったビデオ鑑賞、受講者によるミニピアノコンサートをした。ビデオ鑑賞では、1人の受講者が、「どこに行っても走り回ってばかりだけど、じっと静かに座って読み聞かせを聞いている様子が映っていて泣きそうになった」と言っていた。少しの時間子どもと離れて学べるこの講座は、親にも、子どもたちにも成長できる機会となったようだ。

《受講者の感想》

(9/12)下の子もこれから離乳食が始まるのでりんごや食べ物の形に気をつけて進めていきたいです (9/26)ゲタやぞうりが良いと知れて実践したくなりました (10/17)舌の位置が治ったら、夜の寝つきがよくなりました／舌ワイパー、親子でやってみます！ (全体)保育ノートを読むのが毎回楽しみでした！／子どもも「先生とまたあそびたい！次はいつくの～？」と楽しみにしていました／他のママさんとも回数を重ねるごとにお話をするようになり、とても新鮮でした



(今後受けてみたい講座)

兄弟喧嘩、子育てにおける優先順位／防災のこと／歯みがき、離乳食の進め方／痲癩を起こした時の対処法／家族で行けるおでかけスポット／父親も一緒に講座を開ける機会

<課題>

質疑応答時間の確保。受講者とボランティアの交流。

日時	内容	講師
9/5	講座・保育の説明	相互
9/12	“いいタッチ はてなタッチ わるいタッチ” から学ぶ親子のスキンシップ ～0歳児からできる性教育～	あんぐり さなえ(みんなのカタリバカフェ)
9/19	もしもの時の応急処置	木島・三ツ松認定こども園 看護師
9/26	ヨガ	田代 風沙(Nagi Yoga)
10/3	ハンドケア、交流	上野 千賀子 (ハンドセラピスト/まちのすぐれもの登録者)
10/10	お話と体験の理論編 歯科医が伝える！歯と子どもの健康の関わり①	小島 理恵(小島歯科医院 副院長)
10/17	お話と歯ヨガの実践編 歯科医が伝える！歯と子どもの健康の関わり②	小島 理恵(小島歯科医院 副院長)
10/24	講座のまとめ	相互

親子で料理

<ねらい>

子育て世代に食への関心を持ってもらうきっかけ。

子どもが生きる力を身につける機会。

親子が一緒に過ごす時間を提供。



<状況・成果>

5/12、10/6、12/1 日曜日、2/1 土曜日（全4回）受講者延べ106人

午前の部 幼児親子（3歳～） 午後の部 小学生親子

講師：大力 恵美（子連れ料理教室 Flash kitchen MEG☆LABO）

昨年に引き続き二年目の取組となる。受講者も毎回募集しており、全回申込み親子も増えてきた。受付は先着順としており、キャンセル待ちの回もある。宣伝は、市広報に加え、子育て支援向けのSNSにも写真を掲載し、広く宣伝した。

この講座では、日頃家では包丁や洗い物を手伝っていない子どもが、公民館では自分から進んで手伝ってくれる様子に、親にとってはわが子の新たな発見があった。また、子どもにとっては、料理をすることで好き嫌いを克服する機会となり、食への関心も高まってきた。

幼児親子対象では、料理に興味をもち始める年齢なので、砂遊びやどろ遊びの延長に粉をこねて、楽しく遊びながらおいしいものが食べられるという経験につながった。また講師の指導は、3才からでもできる工程が多く、子どもが楽しく料理ができるよう工夫されている。

小学生親子対象では、親があまり手を出さずに、子どもを見守りながら、子どもの自主性を尊重していた。普段は働いている親も多く、親側に余裕がない時もあり、家庭では子どものやる気を活かさせられないと感じる事が多い中で、土・日曜日の講座開催は喜ばれた。

料理終了後は、毎回「楽しかった」と親子で話しながら帰る姿を見かける。また父親の参加もあり、父親同士の交流にもなった。



《受講者の感想》

- ・調理中何度も「楽しいなあ～」と言っていました。ゆっくり調理だけに取り組める時間がありがたかったです。さしずせその説明もなんとなく知っていましたが、分子の説明でとてもふに落ちました。これで忘れないと思います。
- ・かぼちゃは嫌いやけど少し食べれた。
- ・先生からのご指導でうちでも料理について本人から「お手伝いするよー」と明るい声があり、嬉しい限りです。
- ・ドーナツもさくさくでトッピングも色々選べて子どもも楽しんで作っていてよかったです。

<課題>

子育て世代が食への関心をもてるようなメニューの考案。

日 時	内 容	幼児親子	小学生親子
5/12	お鍋でご飯を炊く&白だしで作る肉じゃが	5組	7組
10/6	ハロウィンをもっと楽しく!かんたんかわいいスイートパンプキンバー	6組	7組
12/1	米粉の焼きドーナツ	8組	8組
2/1	デザイン寿司を作ろう	5組	7組

ヤマチクオープンサロン

<ねらい>

乳幼児親子の居場所の提供。

<状況・成果>

9/1～3/31 9時～17時 (21回 延べ48人)

活動する乳幼児親子の減少で、定時開催していた乳幼児親子の居場所事業「かばさんルーム」が2021年に閉講した。それに代わってヤマチクオープンサロンを開設した。乳幼児がいると、時間通りに動けない事も多いので、ふらっと公民館を訪れる乳幼児親子が気軽に利用できる。対象は乳幼児親子で、利用は予約ができないこと、同じ時間帯に他の親子があそびに来た時は一緒に使用することとし、保育室の活用と子育て世代の利用拡充を図った。不定期開催ではあるが、公民館を訪れた親子や図書コーナーの一角に設置したキッズスペースを利用している親子に声をかけたり、子育て情報ウェブサイト「ためまっぶかいづか」に毎月案内を掲載したりして利用を促した。

主に平日の昼間は母親と、週末は父親との利用があり、また講座や発表会などの文化事業時の待機場所としても利用されていた。

祖父母と一緒に公民館を訪れる場合もあったので、親子以外でも利用できるよう案内を変更する、利用の少ない夏は室温が高くなるので、室温調整ができるよう入口のドアを開けておく等、いつ来ても利用しやすい工夫をしていく。

<課題>

親子以外の家族でも利用ができるようにする。

気軽に利用しやすい工夫。

ことぶきクラブ

<ねらい>

高齢者の社会的孤立の解消や心身の健康保持、仲間づくりに努める。

受講者の要望を受け入れると同時に、自ら考え学び合う環境づくりに努める。

<状況・成果>

前期 4/2～7/9 後期 9/3～12/10 火曜日（全 30 回）10 時～11 時半 受講者 27 人（内新規 2 人）

昨年度より参加人数は減ったが、新たに 2 人加入。例年通り代表者 2 人と班長を決めた。班分けは毎年異なるメンバーになるよう考慮し、今年は住んでいる地域ごとでまとめた。

オリエンテーションでは、ことぶきクラブの歴史を映像で紹介し、多くの人との出会いを大切に、支え合う関係づくりをめざしていることや、今後公民館に来ることが出来なくなっても公民館で学んだことを地域でも生かしてほしいと伝えている。

前期のプログラムは、毎年要望の多い認知症予防や健康体操、社会見学、グラウンドゴルフ、それ以外に山手地域の歴史を学び現地を訪れたり、貝塚の伝統野菜農家の話、切り文字の実演と体験、貝塚市の防災や水道の話などを学び、新しい発見や体験をすることができた。年間 30 回のプログラムのうち後期の一部は、受講者が主体的にかかわることができるように、班ごとに分かれて創作活動や座談会、班企画の相談など話し合う場を増やし、また班企画の際は当日の運営も任せている。

受講者自らアイデアを出しあった企画は、他の受講者に喜んでもらうと達成感を感じたり、また皆で一緒に考えて企画することで、新しく加入した人も馴染んできて班の団結力も強まった。

後期のはじまりは、公開講座「うたごえサロン」を開催。中央公民館や浜手地区公民館の高齢者講座受講者の参加もあり、交流することができた。マイクの前に立って歌謡曲や唱歌など合計 33 曲を代わる代わる歌った。

今年の目標は、受講者の増加を図ることや、活動の成果を発表する機会として 10 月の山手地区公民館まつりに参加とした。普段練習している 6 点セット（別表年間プログラム補足参照）の中の「つげさん体操」と「よさこい」の 2 曲を発表。当初、受講者に「公民館まつりで発表しましょう」と伝えたところ、参加を希望しない声が多く、半ば諦めかけていたが、ある受講者から「職員がそんな弱気になったらダメですよ」と励まされ、再度ひとりひとりに声がけし、9 人が舞台に立った。会場では、舞台に出なかった受講者が応援団として一緒に客席で体操したり、よさこいの鳴子を振ってくれていた。演技終了後、「来年はつげサンバで出たいなあ」という前向きな声もあった。

最終回では、今年の振り返りとたこ焼きパーティーを行った。次年度も野外活動の要望が多かったが、歩くことに不安がある受講者も少なくない。みんなで食べたたこ焼きパーティーでは、「感想には書けなかったが、今日が一番楽しかった」という人が多かった。

一年を通して交流も深まってきたので、1 月以降有志で自主活動の提案があり、半数以上が集まることとなった。

<課題>

班活動をさらに充実させるために、様々なテーマで話し合う機会を増やす。

お互いを理解し、支え合う関係づくりをすすめる。



—成人対象事業—

(表) 年間プログラム

月日	内容	講師
4/2	開講、アコーディオン伴奏で、懐かしの歌をうたいましょう	まちのすぐれもの登録者 奥部真二
4/9	レクリエーション 6点セット、卓球バレー	相互
4/16	グラウンドゴルフ	相互
4/23	山手地域の歴史	貝塚市文化財保存活用室職員 曾我 友良
4/30	野外活動 水間の庄屋さん 井手家見学	一般社団法人井手家 南川 孝司 貝塚市文化財保存活用室職員 曾我 友良
5/7	災害に備えて	貝塚市危機管理課職員
5/14	いつまでも元気で ～健康体操～	ストレッチ体操浜風 講師 田中 弘子
5/21	貝塚の伝統野菜「水なす」栽培の魅力	北野農園 北野忠清
5/28	料理実習(カレー)	相互
6/4	6点セット、卓球バレー	相互
6/11	切り文字の実演と体験	くまもり観光大使・切り文字作家 切り文字じょじょすけ
6/18	タオル体操、班企画の相談、公民館まつり参加にむけて	相互
6/25	エンディングノートの書き方	シティホール貝塚中央 職員
7/2	6点セット、ニュースポーツ	相互
7/9	茶話会 前期を振り返って	相互
9/3	公開講座 うたごえサロン	深見勝也、村田貴子、緑とも子
9/10	お茶とお花を楽しむ	文化サロン 講師 南 藤甫
9/17	地域の健康づくりを支える フレイル予防の取り組み	山手包括センター職員
9/24	いすヨガ体験	まちのすぐれもの登録者 津田 美穂
10/1	ヤクルト健康セミナー	近畿中央ヤクルト販売(株)広報課 戸川真早美
10/8	姿勢と呼吸を整えましょう、公民館まつりの練習	柔道整復師 元林 観
10/15	声のトレーニング、公民館まつりの練習	相互
10/20	～公民館まつり 本番～	—
10/29	社会見学 泉南イングリッシュガーデン、青木松風庵	相互
11/5	【3班企画】貝塚の水道～水道に関する事ならなんでもきいてください～	上下水道課 浄水課職員
11/12	【4班企画】グラウンドゴルフ	相互
11/19	手作りディフューザー	まちのすぐれもの登録者 上野 千賀子
11/26	【2班企画】料理実習(炊き込みご飯、にゅうめん)	相互
12/3	【1班企画】卓球バレー、百人一首	相互
12/10	茶話会 一年を振り返って、たこやきパーティー	相互

(補足)

6点セット：①つげさん体操、②つげサンバ、③南京玉すだれ、④花笠音頭、⑤皿まわし、⑥よさこい
認知症予防の一環として取り入れている。

はじめてのフラダンス

<ねらい>

フラダンス(以下フラ)を通して心と体をつなげて自分をみつめる機会とする。

山手地区公民館まつりでの発表を目指す。

<状況・成果>

6/24～10/7 月曜日 19時～20時(全8回) 受講者16人

講師：野原 美和(ナープア オーリノ フラ スタジオ主宰)

5月に開催した文化事業「ALOHA IN ヤマチク」での宣伝効果もあり、定員をこえる申込があり、うち1組は小学生の親子参加だった。全員フラは初めてで、パウスカートも講師からレンタルした。

踊る曲は「E pili Mai」で求愛する男性の思いが歌詞になっている。

初回は、フラの基本姿勢を練習し、簡単なステップを学んだ。すり足で右に一步、左に一步という感じで、足を移動してから体重移動していく。足の次は、ハンドモーションというように別々にフラの動きを学んでから、手と足を合わせた。受講者は手と足の動きを同時に行なうと困惑していた。ハンドモーションは、一つひとつが意味のある動作なので、講師はわかりやすく歌詞の意味を伝えながら、繰り返し指導していた。しかし、70代の受講者は、なかなか覚えられなかったので、講座が終わったあとはいつも自主練習をしていたほど熱心であった。

講座半ばで公民館まつりへの参加や講座終了後の継続の意思を確認したところ、半数が「講座だけでよい」という意見であった。それぞれ家の事情や体調が悪くなり継続できないということである。

10月の公民館まつりは、受講者のうち参加希望者が舞台にたった。大勢の観客の中でのはじめての発表だったので、出演前は緊張で不安そうであった。講師が応援にかけつけ、匂いのおまじないをしてくれたおかげで、はなやかな衣装とフラダンスで堂々と踊っていた。

まつりの反省会では、今後に向けて話し合い、その結果5人がグループとして継続していくこととなった。



<課題>

今後、自主グループとしての活動を支援する。

(受講者の感想)

- ・とても楽しく受講できました。最初は手足がバタバタしていましたが、少しくまくなれたと思います。先生の“ナイス”好きでした。
- ・覚えが悪く頭がついていかなかった。でも楽しかったです。
- ・親子で参加できてとても楽しい時間でした。

ボクティス

<ねらい>

地域の健康推進や運動能力の向上を図る。
現役世代が参加しやすい講座とする。

<状況・成果>

5/17、5/31、6/7、6/21、7/6 金曜日 19時半～20時半 (全5回) 受講者 30人

講師：梅本 道代 (NPO 法人いきいき・のびのび健康づくり協会理事)

ボクティスとは、講師が考案したボクシング (パンチ、キック) とピラティス (体幹強化) を取り入れたエクササイズで、姿勢改善やダイエットに効果的な運動である。

受講者は30～70代で、特に、現役世代の参加が目立った。中には、共働きの親が、子どもを連れて参加することもあった。夜間講座のため子どもの参加は想定していなかったが、講師と相談し、上限は、子どもも含めて30人とする、危険回避のため子ども連れは舞台の上であることを条件に参加可能とした。

回を重ねるごとに、動きが複雑化し、運動量も増えていったが、講師の力強い声掛けに励まされたり、子どもたちの姿に癒されたりしながら、積極的に取り組む姿が印象的だった。

出席率は高かったが、60代の方が「思ったよりハードでついていけないから」と途中で受講を辞退した。今回、主に対象とした現役世代の出席率は高かったため、すぐに改善する必要はないと判断したが、今後は対象や参加者に応じて、難易度を講師と調整する必要がある。

最終回、浜手のボクティス自主グループの紹介をした。その場で加入手続きを済ませる人もおり、継続した活動に繋がった。

《受講者の感想》

- ・公民館における無料の講座を初めて利用させてもらいました。
- ・ボクティス大好きになりました！
- ・1時間がちょうど良くて楽しめました。
- ・運動不足解消になりました。
- ・子どもと参加できてよかった。
- ・先生の「いくよ～！」が聞けなくなると思うとさびしいです。
またボクティスしたいです！！
- ・年齢が高くリズムになかなかついていけませんでした、
楽しくできました。ストレッチ (最後) よかったです。



<課題>

子どもの参加について、予めルール等を定めておく。
難易度の調整。

うたごえサロン（高齢介護課共催講座）

<ねらい>

高齢者の健康づくり、介護予防に役立てる。
受講者が主体的に参加出来る場の提供。
懐かしの歌や生伴奏に触れ音楽に親しむ。

<状況・成果>

6/15 土曜日 14時～16時 受講者 25人

指導者（以下、メンバー）：深海勝也（ボーカル&司会）、村田貴子（ボーカル）、緑とも子（ピアノ伴奏）

歌うことは、腹式呼吸や誤嚥性肺炎などの予防にもなり健康効果が期待できる。また受講者が懐かしい曲をリクエストし、生伴奏とともに歌うことで幸福感や免疫力を高めることが期待できる。このように講座は高齢期の健康維持とともに、心身に良い刺激を受ける機会とした。

高齢者を含め誰でも参加しやすいように、土曜日の開催として講座の募集を行ったが、申込者数は思うように伸びなかった。応募状況を知った人が、歌の好きな人に口コミで宣伝をしてくれた。

講座は、15分休憩をはさみ、2部構成で開催した。開催にあたり、前に出て歌う時はマイクは手で持たずスタンドに設置した状態で使用すること、歌集は以前に浜手地区公民館で作成していたもので今後も使用するため返却してもらうことを伝えた。

「うたうことが好き」と話してくれる受講者も多く、進行役のメンバーと昔の風景や思い出を振り返ったり、ピアノ伴奏に合わせて体全体でリズムを取ったりしながら歌った。

想定していたより参加は少なかったが、前に出やすい雰囲気が出たので、疲れが出ると思われたが、「まだまだ歌いたい」「また参加したい」などの感想があり、充実した時間を過ごしていたことが伺えた。

終了後にメンバーから、ピアノの音が後方では聞こえづらく歌と伴奏がずれていたことがあげられた。今後同様の事業を少人数で開催する場合は視聴覚室を使用し、またホールで開催する場合はコンサートピアノを使用して行っていくことを話し合った。

【受講者の感想】

大変楽しかったので、ことぶきクラブにもぜひきていただきたい／久しぶりに声を出せて楽しかったです。またお願いします。／また参加したい。なつかしいうたでよかった／またしてほしいです／すごく楽しかったです。また参加したいです。

<課題>

高齢者を対象とした事業では、平日の開催も視野に入れて企画していく。
開催場所や設営などの工夫。



笑いヨガ（高齢介護課共催講座）

<ねらい>

笑いヨガを活用した高齢者の健康づくりの紹介と実践。

<状況・成果>

6/27、7/11 木曜日 13時半～15時（全2回）受講者 22人

講師：池川 成子（笑いヨガインストラクター）

高齢期に入ると、膝や腰など各部位に痛みを抱えている人が増えてくる。そんな高齢期でも普段の生活の中で取り組める健康づくりとして笑いヨガを行った。笑いヨガは、笑う動作とヨガの呼吸を組み合わせた健康体操で認知症予防も期待できる。また一人で行うよりも複数で行うことで笑いの連鎖がおこり血流も良くなる。しかし受講者のほとんどが笑いヨガの初心者でまだまだ認知度が低いことが伺えた。



スライドで笑いヨガを紹介したあと、受講者同士が「静電気握手笑い」「謝罪笑い」「喧嘩笑い」（指をさしながら笑う）、「ナマステ笑い」、「自転車笑い」、「アロハ笑い」、「出る杭は抜く」など様々な笑いヨガを実践した。

歩きながら行う笑いヨガでは、初対面の受講者同士が、日本人の苦手なアイコンタクトを自然と行っていた。また講師は、受講者に「〇〇さん」と呼びかけてから感想を聞いたり質問をしたりしながら進めてくれたので、相互が親しく和やかな雰囲気となった。

最終回は、3グループに分かれ、好きな笑いヨガを選んで練習した後、それを全員で行った。自分たちで選んで行った笑いヨガは、一体感や自信にもつながり動きや声の大きさも力強くなっていた。

笑いヨガを体験し、お気に入りの笑いヨガを日常の生活に取り入れるきっかけとなった。また笑う機会が少なくなった人、介護施設で実践したい人、それぞれの思いで笑いヨガに取り組んでいた。グループで笑いヨガを実践していく中で、「馬鹿馬鹿しい」「恥ずかしい」ことを共有し、「偽物の笑い」が「本物の笑い」へと変わっていた。

<課題>

今後も高齢者が無理なく参加できるような取り組みの継続。



ノルディックウォーキング（高齢介護課共催講座）

<ねらい>

高齢者の健康づくり・介護予防に役立てる。

身体の特徴、特にゆがみや歩く時のくせなどを知り、意識して改善する。

<状況・成果>

9/27、10/11、10/25、11/8、11/22 金曜日 10時～11時半（全5回） 受講者15人

講師：松田 浩一（NPO 法人日本ノルディックウォーキング協会公認インストラクター）

6人が初心者だった。毎年受講者は減少しているので山手地区公民館でサークル活動を継続している人にも声掛けし、9人が参加。初心者には、ディフェンシブスタイル（ポールを前について転倒防止姿勢矯正を重視した歩き方）とアグレッシブスタイル（うしろへ押し出しながら推進していく歩き方）のポールを用意した。しっかりと歩くことができる人は、すぐにアグレッシブスタイルのポールに切り替えていった。

サークルのメンバーは、講師のもとであらためて自分のフォームを確認することができた。また、経験者が意識して初心者にもアドバイスするなど、交流を深めた。

ポールのつき方、腕の振り方、靴やインソール、ポールの情報など、受講者から講師への質問が毎回あり、積極的に学ぶ姿が見られた。個人ではなく、みんなと一緒に歩くからこそモチベーションが保てたという人もいた。

歩くことに不安を感じている人もいたので、少しずつ距離を伸ばしていったが、長距離のコースを歩くことができない受講者は、講座の受講自体を途中で辞退した。

最終回は、二色の浜周辺を歩いた。特に山手地域に住んでいる人はめったに訪れることはないのので、景色を楽しみながら歩いていた。サークルのメンバーから、“一緒にやってみましょう”とサークルに誘う様子も見られた。ポールをレンタルした人も、最終日には購入したマイポールで参加していた。今後は、各自で練習する人や、サークルに加入する人など、この講座をきっかけに全員が「継続して取り組んでいく」という感想であった。

また、「かいづか介護予防マイレージ」を使ってポイントを獲得することがモチベーションとなり、「継続して講座に参加することができた」という声もあった。



<課題>

高齢者にとって地域で集い健康維持に努められる内容を検討する。

書道～筆墨に親しむ～

<ねらい>

書道に親しむ機会。

受講者同士が交流できる場の創出。

講座終了後の学習や集団づくり。

<状況・成果>

第1期 9/6、9/20、10/4、10/18 金曜日（全4回） 10時～11時半 受講者9人

第2期 11/1、11/15、11/29、12/13 金曜日（全4回） 10時～11時半 受講者11人

講師：南 裕子（まちのすぐれもの登録者）

昨年度は、平日の夜に実用性の高いボールペン字や筆ペン講座を開催したが、今年度は平日の午前に設定し、道具の準備にひと手間かけてじっくり筆と墨の感触を味わう書道講座を開催した。

打合せ時に、カリキュラムをしっかりと組むと時間にゆとりがなくなることが講師から挙げられたので、毎回のテーマは受講者の様子を見ながら決めていくこととした。また書く楽しさを味わってもらうため2期に分けて開催し、継続者と新規受講者が一緒に行えるように進めてもらった。

初回は、はじめに筆のチェックを行った。子どもの習字セットなどを持参している人がほとんどで、筆が古く毛が抜けたり切れたりしている人やのりを落とす必要がある新品の筆を持参している人は、公民館で準備した筆を使用してもらった。また、筆の持ち方（正解はないが、自由度が増す1本もち、安定する2本もち）、姿勢（立位、座位）、筆の材質（白毛は軟らかく、茶毛は腰がある）などについて学んだ。

書の手本は、毎回講師が準備してくれた。初回は基本の「楷書」、第2回は少し崩した「行書」、第3回は小筆を使った「かな文字」、最終回は独特の筆使いの「隸書」を行った。なかなかうまく書き進められない受講者は、手本を半紙の下に敷いて書き写して習った。かな文字では、墨を磨って書き進め、薄墨のほうさらさらとかける感触を味わった。最終日は、講師が筆を巻き込んで書くやわらかく伸びやかな隸書に合った筆・紙・墨を持参してくれ、書き心地の違いを体感するなど、終了時間ぎりぎりまで書を楽しんでいた。

第2期は7人が継続受講し、4人の新規受講者とともにいった。プログラムは第1期と同様に楷書から進め、またその日の作品をロビーに展示した。机上で観る作品との違いや、人に見てもらって喜びもあり、毎回の励みになった。受講者から第2期終了後の活動についての問い合わせがあったので、自主グループ活動の希望調査もあわせて講座のアンケートをとった。今回の講座で、受講者同士が顔なじみとなり、

それぞれが気軽に話せる関係性ができつつあるので、継続的な活動の希望も複数あった。実際に自主グループとして活動していくためには、もう少しメンバーを増やしていく必要がある。

《受講者の感想》学生時代に習字を習っていましたが、こちらの講座で新たな学びがたくさんあり大変おもしろいです。集中できる時間ができたことも精神的に良いものと感じています。／実力差があるので、初心者向けとか区別があってもいいかなと思いました。／超久しぶりに筆を使いました。超下手ですが楽しいです。楽しみたいです。／小学校以来の書道で難しかったです。落ち着いた時間が持てて楽しかったです。／筆の運び方など知らなかったことも学びました。

<課題>

自主活動に繋がる様々な講座の開催を検討していく。



はじめようインスタグラム

<ねらい>

高齢者のデジタル格差の解消。

公民館インスタグラムの開設に伴い、利用のすそ野を広げる。

Wi-Fi 環境の活用。

<状況・成果>

12/2、12/9 月曜日 13時半～15時半（全2回）受講者10人

講師：鳥居伸利（寝屋川市生涯学習センターIT担当兼講師）

公民館の利用はおもに高齢者であるが、若い世代にも公民館を知ってもらうための手段として、インスタグラムの活用が有効であると若手職員からの意見があり、7月より貝塚公民館独自の公式インスタグラムを開設した。インスタグラムは、自分の友人や家族・知り合い、その他同じ趣味の人同士がつながり情報の拡散が見込まれる。インスタグラムを活用して公民館情報を発信していくために、まずは公民館を利用している高齢者やはじめて使う人を対象に講座を開催した。

受講者には、スマホのフル充電、アプリをインストールする際に必要なメールアドレスの準備を伝え、不安のある人は事前に窓口で確認作業を行った。またWi-Fiの接続にも時間を要するため、当日来た人から順次サポートを行った。

初回はインスタグラムの性質、活用方法、注意点等を聞いてからアプリケーションをインストールした。それぞれの機種の違いもあるので、講師と職員3人がサポートに入り進めた。アカウント、フォロー、キャプションなど初めて聞く用語が次々と出て来たときは、その都度講師が丁寧に解説してくれた。第2回では、実際に公民館内を散策し撮ってきた写真を投稿した。写真や音楽を使って投稿する際の注意点や、キャプションやハッシュタグをつけて同じ趣味の人と繋がる方法などを学んだ。自分たちの投稿写真に、「#山手地区公民館」を入れ再度検索し、受講者同士が投稿にメッセージを入力したりフォローをしたりして繋がっていた。

インスタグラムは、「自分がここにいるよ」を積極的に伝えたい人にとっては、世界中と繋がれる楽しい手段である一方、個人情報やセキュリティーなどに不安を感じる人は趣味などの情報を見るだけに留めている。活用方法に個人差はあるが、一度設定しておけば抵抗のない範囲で利用できる。

インスタグラムを設定する際、セキュリティー解除のパスワードがわからずインストールできなかった人、自分の電話番号でインスタグラムに登録したところ、以前他の人が使っていたアカウントにログインした人、投稿画面にあるはずの削除ボタンが表記されないなど、講師も初めての場面に直面したが、その際にどう判断するかを後押ししてもらえたので、インスタグラム活用の一歩を踏み出すことができた。また受講者が貝塚公民館のインスタグラムをフォローしてくれ、フォロワー獲得の一助となった。

<課題>

貝塚公民館インスタグラムのフォロワーを地道に増やしていく。

インスタグラムを含めスマホ講座の継続。



スマホ・タブレット・インターネット（基本のキ）なんでも相談会

<ねらい>

高齢者のデジタル格差の解消。

職員が対応する事で、利用者の困りごとへの理解を深める。

<状況・成果>

期間：4/1～3/31 開館日の10時～12時、13時～15時 対応時間1人30分程度 利用者49人

近年、デジタル技術の加速に伴い格差が生じ、特に高齢者が取り残されがちである。さらにセキュリティ対策も加わり、機種変更等でこれまで出来ていたことが出来なくなっている人も多い。以前のスマホ講座は、講義形式で行っていたがそれぞれの困りごとは多様であることから、昨年度より個別相談窓口を設け、上記時間帯で対応した（日時を指定した予約対応もあり）。

特に令和5年に設置したフリーWi-Fiの接続方法は、年間を通じて窓口への問い合わせは後を絶たない。その他、文字サイズの変更、ライン通知の消し方、電話帳の登録方法、かいつか介護マイレージのインストールなどがあった。個々の相談は、ラインアプリが一定普及したことで便利さを増す一方、ショートメールや電子メールを設定していない人が多く、本人確認等のセキュリティチェックが進めないなど本来の相談内容とは別の問題に発展した。

相談会の対応には限界があるため、市の広報やチラシの宣伝はあえて行っていないが、同時に複数の相談がある場合もあり、職員のみでの対応は難しくなっている。デジタル格差の解消は、いかに慣れ親しんでもらえるかである。悩みを解消し便利に使える事を知ってもらうために、専門家から学ぶ機会も必要である。それを補足するためのスマホ相談会という位置づけで、デジタルに慣れ親しむ世代の協力も得ながら、今後も継続していきたい。

<課題>

相談会のサポート体制の持ち方。

ふれあい料理

<ねらい>

障がいのある人が主体的に料理実習に関わり、日常生活に必要な生活スキルを向上させる。

受講者同士やボランティアとの交流を図り、相互理解に努める。

<状況・成果>

5/17～3/21 金曜日 10時半～12時半 (全9回) 受講者 延べ51人

参加施設：障害福祉サービス事業所「ほっこりの里(以下、ほっこり)」「グループホームみずま(以下、みずま)」「こすもすの里(以下、こすもす)」

4月に開催した担当者会議(施設職員、ボランティア、公民館職員)で、次のことが決定した。①ほっこり、みずまは毎月参加②こすもすは、8月に1施設のみで開催する(前年度は不参加。感染症への不安は引き続きあるが、少しずつ地域との繋がりを取り戻していきたいという施設側の意向から)③今年度のテーマを「多国籍料理」とし、外国のメニューを多く取り入れる。

受講人数について、みずまは、よく受講していた利用者が就業したことなどにより、受講者なしになる月もある一方で、ほっこりは、毎月受講希望者が多い。ボランティアの数から、全体の定員自体を増やすことは難しいが、定員のうちほっこりが占める割合を大きくするなどして対応している。

受講者は、複数回来ていて、ボランティアとの繋がりができている人もいれば、初めて講座に来る人もいる。中には、綺麗好きで調理には全く入らず、ひたすら流し台を掃除している人や、指示がないと立ち尽くしてしまう人もいるが、ボランティアの「これしてみる？」の一声などで、毎回全員が料理に関わっている。また、ボランティアと施設職員など多くの見守りがある環境で、使えないと思っていた包丁を使って野菜を切ることができたり、火の近くで炒めたりするなど、受講者の挑戦、成功体験の場となった。



<課題>

ボランティアの確保。

月	献立	参加施設
5	カレーライス、サニーレタスのシーザーサラダ、いちごとみかんの牛乳缶	ほっこり、みずま
6	アクアパッツァ、ほうれん草ベーコンソテー、プリン、ご飯	ほっこり
7	ガパオライス、春雨サラダ、ココアムース	ほっこり
8	ガパオライス、春雨サラダ、ココアムース	こすもす
9	スペイン風オムレツ(トルティーヤ)、ガスパッチョ、スペイン風カスタード、ご飯	中止
10	カルボナーラ、かぼちゃとれんこんローストサラダ、かぼちゃのミルク羊羹	ほっこり、みずま
11	スペイン風オムレツ(トルティーヤ)、ガスパッチョ、スペイン風カスタード、ご飯	ほっこり
12	フライドチキン、温野菜のリースサラダ、コーンポタージュ、チョコレートプリン、ご飯	ほっこり
1	シーフードのパエリア風、温野菜サラダ、クリームスープ、日の出みかん	中止
2	酢豚、中華スープ、豆花(トウファ)、ご飯	ほっこり
3	シーフードのパエリア風、温野菜サラダ、クリームスープ、日の出みかん	ほっこり

ふらっとサークル

<ねらい>

心身に障がいのある人の交流の場。

<状況・成果>

4/7、5/5、6/2 日曜日 10時～12時（全3回） 受講者9人 ボランティア1人

心身に障がいのある人を対象に、家と働く場所以外の楽しい居場所づくりとして、昨年度に引き続き開催した。心身に不安のある人の中には、場所や人などの環境の変化に適応することが難しい人もいる。昨年度、この事業を立ち上げた担当職員の異動を伝えると、残念な顔を覗かせた。そんな中でも初回は、なじみの元公民館職員が関わり、障がい者スポーツボッチャや新聞オリンピックなど身体を動かしながら、グループで点数を競い、時には冗談を言いながら楽しくゲームを行った。

日時	内容 / 講師・協力	受講者
4/7	ニュースポーツ／西本 仁志（元公民館職員）	6人
5/5	カードゲームなどをして交流／相互	6人
6/2	姿勢と呼吸を整えましょう／元林 観（柔道整復師）	6人

たくさんの事を一度に伝えられない受講者の一人が、自分のことを知ってもらうため、自己紹介カードを持参し、新規担当職員に伝えてくれた。受講者どうしは昨年度からの顔なじみで、互いの事をゆっくりのペースで知っていく関係ができており、受講者にとって居心地の良い場所となっていた。

しかし、職員やボランティアの体制、それぞれ症状の違う受講者への対応に不安があるとの声がボランティア側からあり、それを受けて関係機関等に相談を行ったが解決策が見つからず、課題がクリアできるようになるまで、講座の開催は見送ることとなった。受講者には、7月以降中央公民館で開催している「夢にチャレンジ」講座の案内を行い、年度途中からでも参加できるよう繋いだ。

ふらっとサークルの講座は閉講したが、今後も心身に障がいのある人の居場所として、講座形式にこだわらず幅広い視野で検討していく。

<課題>

様々な障がいのある人が気軽に公民館を利用できる場の提供。



4月ボッチャと新聞オリンピック



6月 呼吸と姿勢を整えましょう

学習の集いの場

<ねらい>

気軽に利用できる「集いの場」を市民とともにつくる。

多様な学びを支え、学びを通して人をつなぐ。

より多くの市民が利用できる仕組みにすること、新規利用者の活動場所をつくる。

<状況・成果>

4月～翌年3月 毎週木曜日 ※例外あり

15時半～21時（小学生のみの場合17時15分、中学生のみの場合20時まで）受講者延べ386人
今年で2年目の事業となる。初年度は、空き部屋の活用や公民館の認知度向上の狙いもあったが、想定より利用者が少なく、より多くの人に利用してもらうことが課題となった。

一方、今年度は、前期の利用者が大幅に増加した。その理由としては、中学生によるロコミである。夏休みに入ると、小学生高学年のマナーの悪さが目立ち始めた（スマホでゲーム、菓子袋や空き缶の放置、移動させた机やイスがそのまま等々）。対策として、8月から「自習室の使用に関するお願い」カードを渡して注意喚起をしたところ、マナーの悪い利用者がいなくなった。

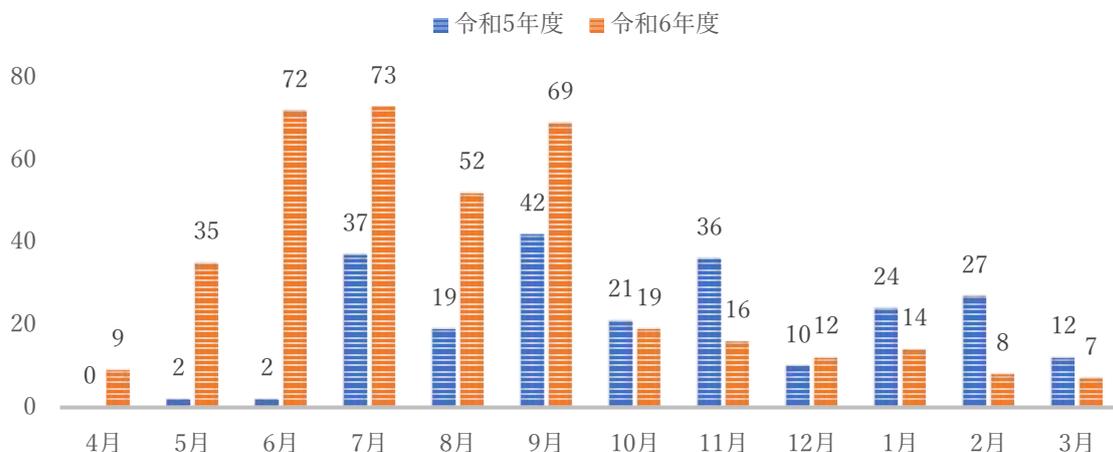
また、21時以降の自習室の延長希望の対応について、職員から「時間帯が遅い。職員が不在になるのでロビーを使用してもらった方が良い」という意見があった。しかし、制限はできるだけ少なくしたいという観点から考え、21時以降の利用の希望があること、また、利用者のマナーが良いこともあり、大阪府青少年健全育成条例（対象となる青少年の区分）を考慮し、21時以降の利用を認めた。ただし、延長利用者がいる場合は、当直へその旨を伝えることとした。

これからも当事業を通して、簡易な手続で柔軟に空き部屋が利用でき、かつ、地域住民が積極的に活用できる施設にしていきたい。

<課題>

空き部屋の有効活用に対する柔軟な対応。

年間利用者数（単位：延べ人数）



ロビーコンサート

<ねらい>

身近で生の音楽を楽しむ機会とする。

市民の文化活動の場とし、内容の企画・運営についても自主的に進める。

<状況・成果>

奇数月 第3火曜日 12時半～13時半（全6回） 参加者延べ340人

ロビーコンサートは、誰でも気軽に生の音楽に触れる機会として、昼の時間帯に開催している。2グループ（貝塚市クラシック音楽家協会、アンサンブルBUNS）で各回を担当し、それぞれが内容等の企画・運営に関わり取り組んでいる。

昨年度に引き続き今年度も、オンライン観覧ができるようにしていたが、リハーサルが行えないこと、現行の機材・環境では映像・音声共に満足の得られる環境が整えられないことを考慮し9月より中止した。

5月は誰一人幸福が得られないウクライナで戦禍にいる人に思いを寄せながらの歌唱に、観客は涙を拭いながら歌の世界に引き込まれた。7月はあえてクラシックを外し、ミュージカルや歌唱を中心に親しみやすいプログラムで、乳幼児も演奏に拍手を送っていた。9月は主役楽器としてはマイナーなヴィオラの音色を味わい、11月は手作りの地図を使ってヨーロッパ音楽の世界を巡り、1月は新春を飾る箏とフルート、3月は春の到来を祝う独唱やアンサンブルなど、季節に合わせてテーマやプログラムを構成し演奏会を盛り立てた。

コロナ禍以降、団体との打ち合わせができないまま今年度を迎えたが、これまでの経験から例年通りの担当月にそれぞれの団体が、テーマやプログラムなどの企画・運営を自主的に進めてくれた。今年度は、11月にこれまでの振り返りと次年度に向けての企画・運営会議を2団体と公民館で行った。ここ数年火曜日の活動団体が多く、駐車場が満車になり利用したい人が入れないことや、コンサートの音が活動に影響を与えることなどが課題として挙げられ、次年度は利用団体の少ない曜日や時間帯に変更することを決めた。その他、決めた時間帯以外のリハーサルは音楽室や視聴覚室・楽屋を利用して行うこと、一般利用者の撮影ルール、各団体に配布するチラシの枚数、演者の負担を考慮しチラシの作成は公民館で行うこと、2団体の担当月は現行通り行うことなどを確認した。

<課題>

開催日時や運営方法の見直し。



※企画欄のB=アンサンブルBUNS、ク=貝塚市クラシック音楽家協会

月日	内容(企画) / 出演者	参加人数
5/21	若葉の季節に歌う (B) / とも池博子・今川知恵子・西規子・三井好子	64
7/16	夏の歌～みんなが知っているあの曲、この曲～ (ク) / 大原陽羽・西村文花・安枝まゆみ	49
9/17	楽しいクラシック (B) / 三井梨愛・今川知恵子・西規子・三井好子	70
11/19	音楽で巡るヨーロッパ (ク) / 明楽香名子・竹内裕美	40
1/21	新春を迎えて (B) / 今川知恵子・岡部雅浪	57
3/18	春が来た Spring Concert (ク) / 上廣綾子・神田ゆみ・溝田千枝・佐藤緑	60

第12回 たまねぎ劇場

<ねらい>

市民グループの発表の場を出演者自ら企画・運営する。

地域で活動しているグループに発表の場を提供することにより、活動を支援する。

<状況・成果>

4/21 日曜日 13時～14時半 参加者 60人（うち出演者 30人）

今回は、5グループが参加したが、初回から参加していたビースマイル（ビートルズサウンドを演奏するグループ）が、メンバーの体調不良により辞退した。実行委員会形式で会議を3回開催し、役割分担もスムーズに決まったが、当日のスタッフが足りなかった。今年も出演者の希望で可動椅子を出し、観客増を見込んだが、宣伝不足のためか少なかった。

観客にも提供できるようにと、福祉施設「白いくも」の手作りパンの販売を予定していたが、急遽参加できなくなり、おさと工房（山手地域のパン屋）に依頼した。

反省会では、毎年同じようなグループで観客の増加も見込めないという意見や、来年は参加できないというグループもあり、話し合いの結果、いったんたまねぎ劇場を休止することとなった。今後は、発表の場として公民館まつりへの参加や、夏の子ども講座への協力などで発表や活動を継続していくことになった。

<課題>

地域で活動しているグループの支援方法を考えていく。

出演者	内容
朗読劇グループ「ことの葉」 山手地区公民館で活動しているクラブ	朗読劇
シエルバレエ 小学校の教室を借りてバレエを練習しているグループ	バレエ
コーラス「シフォン」 山手地区公民館で活動しているクラブ	合唱
和太鼓・民舞サークル「わだち」 幼児から70才まで和太鼓や花笠音頭などおどりを楽しんでいるグループ	和太鼓 民舞



気軽にコンサートピアノを弾こう

<ねらい>

コンサートピアノの有効活用と周知。
練習の成果発表の場。
他者の演奏を聴き、互いに刺激を受ける。

<状況・成果>

5/5 日曜日 9時～16時 参加者 53人 (内演奏者延べ 19人)
8/11 日曜日 10時～12時、13時～15時 参加者 32人 (内演奏者延べ 19人)
10/6 日曜日 10時～12時、13時～15時 参加者 35人 (内演奏者延べ 16人)

昨年度から継続的な参加が増えている。ピアノ講師に誘われた人、ふらっと公民館を訪れた人、コンクールや発表会前のリハーサルに活用している人など、それぞれがピアノに向き合うエピソードや背景を覗かせてくれた。この講座で知り合ったピアノ講師同士が連弾をする場面もあり、コンサートピアノを囲んで新たな繋がりが生まれていた。

参加者から曲目紹介の要望があったので、演奏曲を事前を書いてもらうか口答で紹介してもらった。演奏後に、参加者同士感想を伝えあう場面もあり、小さなコミュニティも生まれていた。

しっかり準備をしてこの場に臨んでいる人も多くいたので、他者の演奏を聴いて互いに良い刺激を受けていた。また、他事業に参加していた乳幼児や大人がピアノの音色に誘われホールを覗く場面も多く、急遽参加する人もいた。

設営や子どもの演奏時間を考慮し、8月より開催時間や一人あたりの演奏時間を15分から10分に短縮して開催した。大人にとっては、演奏時間が短くなると物足りないという声もあるが、演奏に個人差があるため、持ち時間の設定には課題が残る。

継続的に参加している人も徐々に増え、コンサートピアノの有効活用と事業の周知には一定の成果があった。またこの事業に参加しているピアノ講師に今後のコンサートピアノの活用と事業運営に協力・相談を打診したところ、快諾してくれた。



【演奏者・参加者の感想】

・発表会の練習。場所が変わるとどうしても緊張するのでいい練習になった／久しぶりにコンサートピアノをステージで弾けて音色も良く楽しませていただきました。／今回から10分でしたが、時間の終わりに係の方が合図してくださるのはとても助かりました。／楽しい!!聴いている側も楽しめます♡／グランドピアノを弾く機会は滅多にないので、今回弾くことができ大変嬉しかったです。ありがとうございました。／ピアノの発表会があり、とてもありがたいです。ステキなピアノでした。／美しい音のピアノを何度も弾けて良かったです。ありがとうございました。／またやりたいです。15分ごとの方が焦らないです。／いつも楽しいです😊みんなとても上手でした100点。クリスマス(中央公民館ピアノリレー)、行きたいです。／らいしゅうのコンクールのよせんに出るから、よいれんしゅうになりました。

<課題>

コンサートピアノを活用した参加型の文化事業の持ち方。
音楽に精通しているボランティアの活躍の場。



ピアノコンサート「ピアノノトナリ」

<ねらい>

プロの演奏家によるピアノコンサートを通して癒しのピアノサウンドに浸る機会。

<状況・成果>

6/9 日曜日 14時～15時 参加者 105人

出演:ビスコ・マルオノ (大阪を中心にソロ演奏活動を行っているピアニスト)

市内と市外で申込日をずらして受付。出演者は、多方面で活躍されているので人気が高く、市外からの参加も多かった。ピアノの音色1つのみで季節の情景や心情が鮮やかに広がるオリジナルを中心に演奏。シークレットゲストの歌手とピアノのコラボやアンコールもあり、予定時間を越えた演奏会となった。ゲストは、観客の反響に感情が高まり涙声になっていた。観客は生の演奏と、四季をテーマにしたオリジナル曲に聞き入り、曲が終わるたびに拍手喝采で会場が盛り上がった。

(参加者の感想)

- ・ピアノが喜んでいました。やさしい心に響く曲ばかりで、各々の曲の情景が目に浮かび胸がいっぱいになった。
- ・作曲されたビスコさんの人柄が伝わってきて楽しい時を過ごせた。
- ・今までジャズ、吹奏楽とありましたが、ピアノだけの演奏は初めてで静かでした。
- ・オリジナル曲でどうかな?と聞いていまだか、素直な音色で心地よかった。



<課題>

シークレットゲストとのデュオも好評だったので、来年度の文化事業につなげる。

ALOHA IN ヤマチク～ハワイの風を～

<ねらい>

心地よい音楽を楽しむ。またフラダンスを通して異文化に触れる機会。

文化事業をきっかけに講座へとつなぐ。

<状況・成果>

5/19 日曜日 13時半～14時半 参加者 180人

出演:ナー プア オーリノ フラ スタジオ主宰 野原美和、ナー プア スペシャルバンド

市内と市外で申込日をずらして受付。公民館利用者も関心を寄せており、ポスターやチラシを見て申し込んだ人が多かった。出演者21人が、いろいろな衣装で登場し華やかな舞台となった。生バンド(ウクレレ・ベース・ギター)の演奏者による曲の解説があった。ダンサーの笑顔と表現力で、観客も癒されてうっとりとした様子だった。途中観客がフラを体験するレクチャータイムがあり、6月から始まる「はじめてのフラダンス」講座につなぐことができた。

(参加者の感想)

- ・どの踊りもステキ、衣装もきれい、みなさんの表情、指先のしなやかさ、腰のふり、足の動き、すべてが美しく見とれました。
- ・生バンド最高。解説もよくわかりました。フラやってみたいです。

<課題>

今後も生の舞台を通して、身近に文化を感じてもらえるよう様々なジャンルの事業に取り組む。



山手寄席

<ねらい>

生の舞台を通して身近に古典芸能にふれる機会を提供する。

<状況・成果>

2/9 日曜日 13時半～15時 参加者 148人

出演：喜怒家哀楽（落語）、渚家六丸・つくし（南京玉すだれ）、井上卓摩（ジャグリング）

9年間続いた水間末廣座をリニューアルした。申込みを三館で受けつけ、整理券を発行することとし、また山手地域のふれあい喫茶に出向いて宣伝を行った結果、200枚発行した。実際の参加者は7割ほどだった。

はじめに、日本の大道芸でもある南京玉すだれを夫婦で披露。南京玉すだれの歴史の紹介、口上を言いながら唄にあわせて釣り竿、阿弥陀如来、橋、鯛などに見立てる演技であった。また、観客2人に太鼓と金で拍子をとってもらったり、皆でかけ声をかけあい、参加者も一体となり会場が盛り上がった。

ジャグリングでは、ヨーヨーやリング、シガーボックスの道具を使った。ハラハラドキドキの芸が続き、技が決まる度に拍手があった。世界チャンピオンをとった時の演技は、最高のパフォーマンスであった。

続いて、落語。演目に入る前のマクラで観客を笑いに引き込み、演目「子ほめ」では、観客は皆約20分間聞き入っていた。

最後に、出演者の好意でサプライズの抽選会を行い、景品として手ぬぐいやインスタントラーメンが渡された。

反省点は、開演時のあいさつの順番を事前に打ち合わせしていなかったこと、出番前に出演者が待機しているかを確認しないで司会が紹介をしたことである。

<課題>

今後も身近に生の舞台を鑑賞できる機会を提供する。

舞台運営の打ち合わせを念入りに行う。



はじめての人形劇

<ねらい>

乳幼児から参加できる人形劇を通して、親子で生の舞台にふれる機会とする。

<状況・成果>

9/29 日曜日 10時半～11時半 参加者 67人

出演：人形劇団クラルテ

演目：「うさぎのおうち」、「ゴリラのパンやさん」

今年で9回目の開催となる。乳幼児連れの家族が大半で、生の人形劇を鑑賞する機会が身近にあることが喜ばれている。



演目の紹介を劇団員と人形で行い、その掛け合いが子ども達を引き付け、終始集中力を切らさず観ていた。背景や衣装の早変わりなど完成度の高い演出に大人も楽しく鑑賞できた。

昨年に比べ、今年は「わかりやすく楽しかった」という感想が多かったが、貝塚だんじり祭りの試験曳の日と重なり、昨年より参加者が減少した。

《参加者の感想》

- ・休日に出掛けると費用がかかるので、無料で開催してくれるのはとてもうれしいです。
- ・笑いどころがあり、子どもがとても楽しそうでした。
- ・以前も人形劇に参加させてもらい、子どもたちがとても面白かったと喜んでいました。
- ・小5になる兄が乳幼児の時代から毎年楽しみにしています。今は私も下の子（4歳）と一緒に楽しんでいます。これからも続けてほしいです。

<課題>

多くの方が参加しやすい日程にする。

地域の行事と重ならないようにする。

ふれあい料理ボランティア

<ねらい>

受講者が安心して活動できるよう、ボランティアのスキルアップを支援する。

受講者、ボランティア同士が交流し、相互理解を深める。

<状況・成果>

登録者 6 人

ボランティア登録者数は、前年度と変わらない。受講希望が多い中、ボランティアの数を考慮して定員を制限していることや、現ボランティアの高齢化等の問題も含め、新たにボランティアを募集していく必要がある。市広報、館内の掲示等、さらなる広報に努めていく。

また、今年度も、有志が障がい者施設でのボランティアを引き受け、公民館外の地域でも活動している。講座で出会った受講者と、そこで再会することも多いようで、地域の繋がりとなっている。

さらに、一部の山手ボランティアから、「ミツロウラップを作ってみたい」と要望があったため、以下の通り山手主催の研修会として実施した。

ふれあい料理ボランティア研修&交流会「ミツロウラップでエコライフ」

11/15 金曜日 14時～15時半 受講者 13人

講師：品田祐加子(貝塚スバコ図書グループ、ハピネスバコ)

三館の料理ボランティアが集う研修会は、約6年ぶりの開催となった。ミツロウラップ作りでは、初対面の他館ボランティアとも協力して取り組んでいた。障がい者をサポートする上で、料理スキルと同等に必要な対人スキルや困っている人への配慮が都度見えたのが印象的だった。

交流会では、各館の今年のレシピを交換したのが好評だった。レシピのマンネリ化に悩んでいる人もいたが、他館のレシピを見ることで新たな発見に繋がったようだ。さらに、浜手では毎月のレシピに野菜の切り方を絵で見て分かるように示しているなど、受講者への配慮方法を新たに学ぶことができた。

また、研修、交流会を含めて1時間を予定していたが、ミツロウラップ作り、交流ともに時間を超過してしまったため、今後開催する時には、時間配分に注意したい。

<受講者の感想>

- ・ミツロウラップを初めて知りました。簡単に出来て、これからも作れそうです。
- ・これからも交流あればいいなと思います。
- ・ミツロウラップについては知っていましたが、なかなかわからない事が多く一歩踏み出せませんでした。実際に作れて楽しかったです。
- ・他館のレシピを見てお料理をしたいと思います。
- ・中央、浜手のレシピを見せてもらい参考になりよかったです。又、中央、浜手の人たちといろいろ話ができよかったです。とても楽しいひとときを過ごせました。
- ・皆さん気さくで楽しかったです。
- ・他館ボランティアさんのお話が聞いて参考になりました。
- ・エコライフの実施は人まかせでしたが、自分でもやっていきたい。

<課題>

新規ボランティアの確保。

研修、交流会の時間配分。



保育ボランティア

<ねらい>

子どもが安全・安心に過ごせる保育環境づくり。
ボランティアが主体的に関われるような場の提供。

<状況・成果>

定期登録者 4 人 不定期登録者 14 人

保育付き講座「子育て講座」(全 8 回)子ども 10 人

今年度の定期登録者は、昨年より 2 人減少した。仕事が多忙になった、専業主婦だったが就職したという理由である。

定期登録者で 9 月から始まる講座に向けて打ち合わせを 2 回行ったが、全員揃う日はなかった。講座を募集すると保育の子どもが 10 人となり、開講式では定期登録者が 3 人欠席という事態になった。この状況では保育を受け入れることが難しいため、元登録者に声をかけ、不定期登録の人員確保に努めた。

講座のテーマに関心のある受講者が多く出席率もよかったので、子どもの数も比例して全員揃う日も多かった。ボランティアは、各回 6、7 人は確保ができた。新しく不定期ボランティアが来た日は、その都度自己紹介を促した。

ボランティアは、自発的に手遊び・絵本の読み聞かせ・お絵描き・遊具を使ったサーキットあそびなどを取り入れ、子どもたちが楽しく遊べるよう工夫をした。終了後は毎回反省会を行い、子どもの様子で気づいたことを伝えあった。

今までよく泣いていた子が、7 回目の時には笑顔で遊んでいる様子に、ボランティア全員が感動した。

修了式では、保育中のビデオを受講者・子ども・ボランティア全員で見て、受講者からは「親と離れていた時、子どもの様子が気になっていたけれど、普段家では見ることができないわが子の新しい発見がありました」という声があった。そしてあらためてボランティアへの感謝を述べていた。



<課題>

定期ボランティア登録者増加に向けた宣伝。

ボランティアが活躍する場を増やすためのしかけ作り。



ピアノカの魔術師コンサート

<ねらい>

鍵盤ハーモニカの魅力を世代を問わず楽しむ。

子どもの豊かな感性を育む。

<状況・成果>

11/24 日曜日 13時～14時 参加者 210人

出演：ミッチュリー（ピアノカ）、高田亮介（ギター）

協力：木島・東山・葛城・永寿校区福祉委員会

2年前にコスモシアターで公演を行い、貝塚市内の小学校でも時々公演をしているという経緯から、市内には子どもから大人までファンも多いという情報を知り、ぜひもっと多くの世代に鍵盤ハーモニカ演奏のすばらしさを伝えたいと企画した。

人気のある公演なので、コロナ禍以降久々に整理券を発行した。配布日以前から問合せがあり、整理券も順調に取りに来るなど、人気ぶりがうかがえた。

当日のプログラムは、「客層を見て曲目の変更があります」と出演者からの意向もあったので、主な曲名のみ掲載した。クラシックメドレーや子どもになじみのある曲の他に、幅広い年代の人が参加していたので、急遽タンゴやジャズといった大人向けの曲も演奏してくれた。

演者の手拍子に合わせて観客が手拍子する掛け合いや、クイズなどで会場を盛り上げたり、子どもたちがもっとピアノカを好きになるように教科書にはのっていない弾き方を伝授してくれた。ピアノカは片手で弾くのが基本だが、ミッチュリーさんに言われるまで何の違和感もないくらい自然体に両手で弾いていた。

コンサートの最後には、平和につながるメッセージがあり、子どもにはわかりやすく、大人には平和の大切さを再認識するような機会となった。

（アンケートより）

- ・しゃべくりも演奏も楽しかった。元気もらいました。
- ・観客を乗せながらの演奏が良かった。
- ・ピアノカのこと、音楽のこと、平和のこと、未来のこと色々考えるきっかけになりました。
- ・胸があつくなりました。
- ・ピアノカのイメージが変わりました。ピアノカがジャズサックスのようで、切れ味もよかった。
- ・子どもへのメッセージがよかった。手が痛くなるまで手拍子したのは久しぶり。
- ・あいさつも関西弁で親しみやすさを感じました。両手で演奏している手にびっくり。
- ・おじいちゃんおばあちゃん老若男女楽しめました。ピアノカは子どもの楽器と思っていた。
- ・音楽ってやっぱり楽しいんだと再確認しました。アレンジされているのがすごく好きです。
- ・ピアノカ concepts を覆すような楽しいコンサートでした。
- ・一緒に参加できるコーナーや、ミッチュリーさんのお話もとても楽しくて明日からもまたがんばれそうです。



<課題>

地域と協力し、幅広い世代が文化に触れる機会を今後も検討する。

山手地区公民館まつり

<ねらい>

日頃の公民館活動の成果を発表する。
各クラブ、地域団体が協力して事業を成功させる。
実行委員会形式の運営を公民館が支援する。

<状況・成果>

10/19 土曜日 10時～16時（展示のみ） 雨
10/20 日曜日 10時～15時 晴
参加者 延べ1,395人（2日間）※昨年に比べ微増
実行委員 クラブ35・地域団体14
テーマ 支えよう 花を咲かそう ヤマチクを
オープニング 東山こども園園児による和太鼓



オープニングの様子

今年は、河崎リハビリテーション大学による健康分析と東山こども園園児の和太鼓の協力があり、大盛況だった。また、準備段階では、まつり告知関連ののぼりや看板が劣化していたため、実行委員から役員へ要望したところ迅速に新調してくれ、見栄えはもちろんのこと、設置のしやすさも好評だった。

舞 台…発表 19組。演目と演目の間以外の出入りを禁止したため、中で何をやっているのかわからない、気になるが入りづらいという声があった。

展 示…出展 10組。1階：クラブ紹介パネル、2階：会場。設営、復旧作業は円滑。作品減が目立った。会場では即売会や絵付け体験を実施した。

模擬店…出店 10組。値段を昨年よりも若干上げたのが影響したか、売り上げはやや低迷した。

風の影響でテントを設営しなかったが、見晴らしがよく明るく感じたという声があった。

（実行委員の声）

- ・オープニングセレモニーのちびっ子たちの和太鼓の演奏はとても良かったです。
- ・庭先の模擬店は晴天で、小学校の運動会のそれに似て牧歌的でよかった。
テントなしでOKだった。
- ・小さい子どもから大人まで一緒に話せて過ごせて本当に楽しいお祭りでした。
地域の人たちは、「こんなに気さくで優しいんだ」と再認識しました。

<課題>

各部会で調査したアンケートに記載された反省点を来年に生かす。



模擬店



作品展示



舞台発表

移動公民館

<ねらい>

近隣の地域住民の交流の機会をつくる。

様々な条件から来館できない人に公民館活動を知ってもらう機会とする。

<状況・成果>

5/24～1/25（全6回）参加者延べ110人

コロナ禍以降地域との連携が不十分だったので、公民館事業の宣伝と地域との連携を復活させるために、山手地域のふれあい喫茶8ヶ所を2ヶ月あまりで回った。地域に出かける際、突然行っても「誰ですか?」という顔をされてしまう場合もある。そんな時は、公民館利用者を頼って、地域へ出向いた。

ふれあい喫茶に参加している人は、70～80才代が多く、「山手地区公民館からよせていただきました」というと、まだ公民館を覚えている世代なので、快く受け入れてくれる。事業の宣伝をすると、当日「公民館職員が宣伝に来てくれたので参加しました」という人もいる。また、早速チラシを町会館の掲示板に貼ってくれるところもあった。ふれあい喫茶は、地域によっては民生委員や健康推進委員、町会役員で運営されているところもあるので、公民館とのつながりを再構築するきっかけとなった。

その中で、三ヶ山・東山・三ッ松団地南自治会で移動公民館を年間2回ずつ開催した。内容は、公民館職員が行う健康体操を中心に、創作・脳トレ・ノルディックウォーキングに加え、公民館で活動しているグループにも協力を得て、ボランティア活動を推奨している。

参加者は、なつかしい歌を一緒に歌ったり、健康体操で体をほぐしたり、創作をしながら会話も弾み、移動公民館を心待ちにしてくれている。また、公民館に来ていた人が地域の中でリーダー的な存在としてがんばっている姿をよく見かける。まさに公民館が人材養成の一助となっていることを実感する瞬間でもあった。



月日	依頼先	内 容	人数
5/24	東山いきいきクラブ	健康体操、タオル体操	19人
6/7	三ッ松団地南自治会	健康体操、壁面（折り紙であさがお作り）	10人
8/24	三ヶ山町会	ロココ（ウクレレグループ）演奏、紙芝居（貝塚の昔話）	30人
11/1	三ッ松団地南自治会	ノルディックウォーキング	6人
11/15	東山いきいきクラブ	脳トレ、朗読「ももたろう」	15人
1/25	三ヶ山町会	公民館クラブ 邦楽グループ「桜」演奏	30人

<課題>

移動公民館の宣伝と新しい地域の開拓。

ロビー活用

<ねらい>

気軽に利用でき、交流できる空間づくりに努める。

文化事業や作品発表、啓発や事業案内などの情報提供の場として活用する。

<状況・成果>

ロビーは放課後の子どもたちが集まり、特に夏の暑い時期はたまり場になっている。活気があって良いが、ゴミを捨てずに帰るなど、時にはマナーの悪さが目立つ。

一方、大人による活用が少ないため、作業・交流・学習など様々な使い方ができるようにイス・テーブル・ソファなどの家具を配置している。

事業としては、展示とコンサートは昨年引き続き行なったが、ヤマチクピアノは形態を変更した。これまでは誰でも自由に弾けるようにしていたが、子どもたちが乱暴に扱ったりするため、「ピアノ演奏を希望する場合は職員に声をかけてください」と貼紙をし、事務所に一声かけてもらい、「丁寧に使ってね」と伝えてから弾いてもらうシステムとした。いたずらの抑止力にはなっていると思われる。

また、新たに始めたこととして、図書コーナーに乳幼児のためのスポンジマットを敷いたところ、設置当初から、靴を脱いで利用する親子が増えた。さらに、本棚と本棚の間が狭く車いすが通れなかったため、通路を確保するよう配置をかえた。

<課題>

子どもがゴミを捨てる習慣を定着させる。

日常的にロビーが利用されていない。

<活動協議会所属クラブ出展>

期間	クラブ名
5月	手編み工房
6月	—
7月	ろうの花
8月	水墨画・ろうの花
9月	水墨画・ろうの花
10月	—
11月	絵手紙・木工
12月	—
1月	パッチワーク
2月	手編み工房・陶芸
3月	木工・陶芸

<その他出展（みんなのロビー展）>

期間	展示内容
5/21～6/4	現代アート（市内在住者）
11/24	もりのえほんぶんこ（市内在住者）
12/5～12	書道（中央公民館利用団体）
〃	再織り（市内在住者）
12/22	もりのえほんぶんこ（市内在住者）
1/19～31	絵画展（市内在住者）
2/1～10	絵画教室えごころ生徒作品（放課後子ども教室）



ピアノ演奏を聴く子どもたち

【参考】ほかでもがんばっているよ

山手地区公民館活動協議会所属クラブやグループの地域活動

回	月日	クラブ	会場	備考
1	5/3	沖縄三線あかばな	三ツ松町会館	「三ツ松町いきいきサロン」に出演。会館が満員になった。
2	5/26	沖縄三線あかばな	森町会館	「森町会いきいきサロン」に出演。一緒に歌い踊って交流。
3	6/8	邦楽クラブ～桜～	ふじや	高齢者の集いに出演。 全6曲演奏。
4	6/21	沖縄三線あかばな	二色3丁目町会	町会の老人会（花水木会）に出演。
5	6/25	オルオルウクレレ	貝塚市立やすらぎ福祉センター	同施設演奏会に出演。 40名ほどの参加があった。
6	8/24	沖縄三線あかばな	岸和田市 天性寺	地藏盆の余興として出演。 本堂で参拝客と一緒に歌い踊った。
7	9/10	沖縄三線あかばな	泉佐野市 介護老人保健施設ホライズン	「敬老の日」祝いとして実施。 アンコール含め11曲披露。
8	11/6	沖縄三線あかばな	岸和田市 ハートフル泉州	デイサービスのイベントに出演。 全10曲を披露。
9	1/19	邦楽クラブ～桜～	森町会館	「森いきいきサロン」に出演。
10	1/25	邦楽クラブ～桜～	三ヶ山町会館	「三ヶ山ふれあい喫茶」に出演。
11	3/15	沖縄三線あかばな	岸和田グランドホール	「叙勲を祝う会」の余興として出演。
12	3/30	沖縄三線あかばな	SENNAN LONG PARK (泉南りんくう公園)	「泉州ドリフェス」に出演。

山手地区公民館活動協議会

<ねらい>

協議会の主体的な活動を支援し、協働・連携を図る。

クラブ運営における課題を考え、解決できるよう協議会と公民館が協力する。

<状況・成果>

クラブ数 33 クラブ員 404 人（11月1日現在）

役員のリレー制度（任期2年）2年目にあたり、今年は初年度の役員と2年目の役員というはじめての構成となったが、全員が責任感をもって任務を全うすることができた。部会を無理なく、効率よく進めるといった共通認識を持ち、定例会当日の準備時間を遅らせるなど配慮ある運営だった。

『レクリエーション部会』では、さよならパーティーを開催した。コロナ禍以降はじめての再開で、様々な出し物があり楽しい時間を共有できた。ジャズコンサートも昨年と同じく開催した。

『広報研修部会』は、協議会ニュースを3回（6、11、3月）発行。また、岸和田徳洲会病院の医師を招き、「狭心症と心筋梗塞」をテーマに講演会を行なった。身近に聞く病名であっても詳しい違いを理解できている人は少ないと思われるが、論理的で非常にわかりやすく大きな学びがあった。

また、今年は高齢化等により2クラブが解散し、2年連続クラブ数が減少した。

<課題>

役員リレー制になり、選出される人が毎年でてくることへの不安をどのように解消できるか。

これ以上クラブ数が減らないようにする。

【主な活動実績】※議案資料作成等職員がサポート

- ・総会 1回
- ・定例会 6回
- ・役員会 12回
- ・現・新役員意見交換会 1回
- ・現・新役員打合せ 1回
- ・10/19・20 公民館まつり 1,395人（9/30 清掃活動 57人）
- ・11/7 研修会（山手ホール）59人
- ・12/15 さよならパーティー（山手ホール）133人
- ・3/2 ジャズコンサート（山手ホール）151人



定例会



研修会



さよならパーティー



ジャズコンサート